

発行所

札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部同窓会  
TEL&FAX (011) 706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
https://hokudai-med-dousou.com

編集人 矢部 一郎  
発行人 浅香 正博

# 北大医学部同窓会新聞



## CONTENTS

- (1) 会長再任のご挨拶 ..... 浅香 正博  
卒業生に贈る言葉 ..... 畠山 鎮次
- (2) 令和5年度総会報告・卒業生歓迎会  
令和5年度総会資料
- (3) 第100期生を歓迎して ..... 浅香 正博  
第100期生代表挨拶 ..... 田中 百香  
第100期生名簿
- (4) 令和5年度同窓会会長賞報告  
第106期生代表ご挨拶 ..... 上杉 宗也  
令和6年4月1年次入学者名簿  
令和6年4月2年次進級者名簿  
令和6年4月2年次学士編入学者名簿
- (5) 教授退任のご挨拶
- (6) 松野 吉宏 久住 一郎 篠原 信雄
- (7) 教授就任のご挨拶  
長 祐子 柳原 純 小野 高子 西尾 妙織  
令和5年度フラテ研究奨励賞報告 渡邊 雅彦  
藤居 勇貴 高島 翔太 横田 準一 千丈 創  
令和6年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!  
フラテ祭2024開催について
- (8) 令和5年度 医学研究院・大学院医学院・  
(9) 医学部医学科各賞受賞者
- (10) 加藤 紘之 青山 英史 渡邊 美佳  
(11) 関谷 翔 千丈 創 春日 優介  
ズームアップ⑳ ..... 瀬谷 司  
ズームアップ㉑ ..... 白土 博樹  
ズームアップ㉒ ..... 木下 一郎  
重要なのは折れない心 ..... 畠山 峰尚  
理事会・評議員会報告  
新役員
- (12) 評議員・予備評議員名簿 ・告知板
- (13) 事務局からお知らせ ・新刊書紹介
- (14) 北海道医学会からお知らせ  
百年記念館の利用について  
過年度会費が2年を超える会費未納者と  
同窓会員名簿の発送について  
【令和6年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い  
ご逝去者 ・一面の写真説明 ・編集後記

## 「北海道大学医学部百年記念館」

まなべ あつし  
真部 淳(61期)



### 会長再任のご挨拶

北海道大学医学部  
同窓会会長

あさか まさひろ  
浅香 正博(48期)

本年3月、北海道大学医学部同窓会評議員会において会長に再任されました。これから2年間、会長業務に専念し、同窓会の発展に尽力いたします。皆様方のご支援とご協力をよろしくお願いいたします。私が同窓会長に就任してから丸12年が経過いたしました。2014年4月より同窓会に医学部の学生も入会をしていただくことになり、学生時代から同窓会活動に触れてもらい、学生と同窓会の距離は一気に短縮されたと思います。本年度の卒業式においても6名の優秀な卒業生が同窓会から表彰を受けております。これまで卒後の数年間は同窓会活動が少し停滞していた印象を受けますが、学生時代より同窓会活動を行っていた世代が加わることで、同窓会が再活性化されることを期待しています。令和5年度の医学部同窓会誌を開いてみると、81期生から98期生まで17年にわたって各期便りが記載されておられません。このままで行くと伝統ある北大医学部同窓会の継続が危ぶまれる状況です。私たち48期は昨年卒業50周年の節目を迎えましたが、これまで5年ごとに開催されていた同期会での交流により、どの時代においても同期の仲間から大きな力をもらって

きたと感じます。同期のつながりは年を経るごとに重要性を増してくると思っています。令和5年度同窓会誌で99期の同期便りが掲載されました。17年ぶりに若い世代の近況がわかり、大変楽しく読ませていただきました。評議員の荒川泰璃君のご尽力に心から感謝します。今年卒業の100期生も卒業後の同期の絆について大事にしたいと語っておいりましたので、定期的に同期会を開くとともに同期便りも書いてくれることを確信しています。

2019年には北海道大学医学部が創立100周年を迎え、盛大な記念行事が施行されました。同窓会の長年の夢であった医学部百年記念館も完成し、同窓会員が集うのにふさわしい施設になりました。

北海道大学医学部同窓会はこれからも北海道大学医学部を支え、二人三脚で将来を見据えながら共に歩いていくつもりです。同窓会の皆様には北海道大学医学部同窓会への一層のご支援を衷心よりお願い申し上げます。



### 卒業生に贈る言葉

北海道大学医学部長

はたけ やま しげ つぐ  
畠山 鎮次(66期)

100期の114名の皆さん、卒業おめでとうございます。医学科の課程を修了し、これから医師として活躍される皆さんの輝かしい門出を、本学教授陣を始め医学部教職員を代表して心からお祝い申し上げます。

北海道大学が掲げている教育理念のひとつに「全人教育」があります。全人とは「知識・感情・志の調和のとれた人」と理解されています。1876年に、北海道大学の前身である札幌農学校の初代教頭ウィリアム・スミス・クラーク博士は、札幌農学校の開校祝辞で、「長年の間、東洋の国々を暗雲のごとく包んで来た因習と身分制度の暴政からの解放は、教育を受けようとする全ての学生達の胸に高邁なる大志を抱かさずにはおかない。」と述べました。クラーク博士はまた、細かな校則を廃止して、「Be gentle」の一言を校則とし、学生達の自律心と独立心を目覚めさせ、個の確立を促し、まさに北大の全人教育の礎をつくりました。

皆さんは、北海道大学で得た知識とともに、この学び舎で涵養してきた感情や志の調和をもとに「医学・医療」の活動を通じて人類社会に貢献する資格を得ました。資格を得たと同時に、大きな責任を負ったということでもあ

ります。すなわち、医学・医療のように進歩が激しい領域に身を置く者は絶えず学ばなければならないということです。それによって、医師や研究者としての社会的責任の一端を継続的に果たすことができます。

これからの医学の道において、国民から期待されている皆さんの使命は、優れた臨床能力を持つとともに、研究を通じて医学・医療の進歩に貢献できる指導的な医師となることです。皆さんには、このような国民から負託された大きな使命があることを深く心に刻んでください。現在、世界最高レベルにある日本の現在の医療は、時代を超えて脈々とこの使命を果たしてきた多くの先達、そして本学卒業生によって、築かれてきたものです。皆さんはこれからは多くの先輩に出会い、指導を受け、そして試行錯誤を繰り返しながら、立派な医師に育っていくことでしょう。大きな夢と高い理想を持ち、自らの資質と能力を最大限に発揮することができる「全人」として、皆さんがそれぞれの医学・医療分野もしくはその他の分野で活躍されることを祈念して、私からの「卒業生に贈る言葉」といたします。

令和6年3月

# 令和5年度総会報告・卒業生歓迎会

## ■令和5年度総会報告

令和5年度総会が、2月5日(月)午後6時30分より医学部百年記念館「大会議室」で開催されました。

会議に先立ち、昨年の総会以降にご逝去された76名の会員のご冥福を祈り、黙とうが捧げられました。

総会は評議員会議長の政氏伸夫先生(65期)と副議長の橋本直樹先生(76期)の進行により行われ、最初に浅香正博同窓会長(48期)の挨拶があり、続いて議事録署名人として松島理明先生(80期)及び千丈創先生(91期)が指名されました。

協議事項では、1. 令和4年度会計収支決算として大西俊介会計理事(70期)から、収支決算状況について説明の後、審議了承されました。2. 令和4年度会計監査として山崎美和子監事(78期)から、会計処理は適切かつ正確に行われている旨説明の後、審議了承されました。

報告事項では、1. 令和5年度庶務・事業報告として久住一郎副会長(60期)から、会員数の推移、諸会議開催状況、経費支援を行っている医学部学生会事業の実施状況及び新たに「医学部百年記念館の維持費支援金」について、2. 令和5年度編集報告として矢部一郎編集理事(67期)から、同窓会新聞及び同

窓会員名簿の編集・発行状況について、3. 令和5年度会計収支中間報告として大西会計理事から、収支状況について、4. 令和5年度フラテ研究奨励賞選考結果として渡邊選考委員会委員長(会員2)から、選考経緯及び選考結果についてそれぞれ報告されました。

総会終了後に、令和5年度フラテ研究奨励賞授賞式が渡邊委員長の司会により執り行われ、藤居勇貴氏(86期)、高島翔太氏(88期)、横田隼一氏(90期)、千丈創氏(91期)に浅香会長から表彰楯及び研究奨励金が授与され、お祝いと激励の言葉が述べられました。

(事務局記)

## ■令和5年度北大医学部同窓会卒業生(第100期)歓迎会報告

総会に引き続いて、午後7時から北大医学部百年記念館1階において、第100期の卒業生歓迎会が開催されました。コロナ禍を経て、今年は4年ぶりに集合型の会食形式での実施となりました。国家試験を終えたばかりの6年生と同窓会員合わせて61名が参加し、和やかな雰囲気での会が進みました。

司会の近裕次郎先生(74期)の進行のもと、同窓会長の浅香正博先生(48期)の挨拶で始まりまして。浅香先生からはフ

ラテ研究奨励賞についてのご報告のほか、近年は同窓会誌への寄稿がない期があるという課題、同期が仲良く交流することの大切さなどのお話がありました。

次に医学研究院長の畠山鎮次先生(66期)からは、7,000人を超える北大医学部卒業生が新卒業生を援助してくれるので、今度はみなさんが後輩を助けるように末永く北大医学部と繋がってほしい、また市中病院で研修した後に専攻医として北大病院に戻ってきてほしい旨の挨拶がありました。

続いて、齋藤和雄先生(35期)から乾杯のご発声をいただき、開宴となりました。

最初のテーブルスピーチとして、北大病院長の渥美達也先生(64期)は、新しい北大病院は東洋一を目指して建設するので、ぜひ第100期のみなさんには戻ってきてほしいとお話しされました。

会が進む中で、卒業する第100期を代表して、佐藤謙太郎君から国家試験終了の報告とお礼の挨拶がありました。佐藤君は、コロナ前・中・後を経て同期の結束が強くなったこと、多くの方々に助けられてきたことを振り返り、「諸君の才覚は己の栄達のためにあらず」という言葉を胸に世の役に立てるよう努力したい、と頼もしい決意表明でした。

その後、阿部弘先生(37期)の激励の言

葉がありました。阿部先生からは、卒業当初はまだ何もできないが、スポンジのように吸収して行ってほしい、救急医療ができるようになってほしい、世界へ出ていくこと、他の人がやらないことをやることへの薦めを含めて、卒業生への檄が飛びました。また、山田崇弘先生(71期)からは、基本領域を研修した後に遺伝医療を学んでほしいとのお話があり、中村仁志夫先生(46期)からの「医学・医療史の歌」の披露もありました。

会の終盤には、フラテ研究奨励賞受賞者のうち、千丈創先生(91期)から挨拶があり、謙虚さ、向上心、コミュニケーションの重要性について述べられました。

閉会の挨拶として、有賀正先生(54期)からは、第100期のみなさんにはぜひプロフェSSIONALになってほしい、自身のために精進し、良い人生であったと思えるような人生を送ってほしいとの激励と乾杯のご発声をいただきました。

最後は参加者全員が輪になって、押野智博先生(90期)の前口上で恒例の都ぞ弥生を斉唱し、久々に開催された歓迎会は閉宴となりました。

(80期 松島理明)

## ■総会からの一コマ



浅香正博先生からの開会のご挨拶



畠山鎮次先生からのご挨拶



渥美達也先生のスピーチ

## ■新卒業生と同窓会員との交流



卒業生代表挨拶 佐藤謙太郎君



阿部弘先生スピーチ



中村仁志夫先生の独唱



都ぞ弥生の斉唱

## 令和5年度総会資料

### 令和4年度 北海道大学医学部同窓会 会計収支決算書

<収入(円)> 令和5年3月31日

項目	予算額	決算額	差額
会費収入	20,500,000	22,126,529	1,626,529
コンビニ収納		17,027,000	◎会費請求額
口座引落		785,000	124,610,968円
銀行振込		1,771,000	納入率17.8%
郵便振替		2,543,529	
事業関連収入	170,000	190,000	20,000
広告収入	170,000	190,000	20,000
雑収入	951,000	1,002,591	51,591
利息収入	1,000	83	△ 917
保険事務費	950,000	1,002,508	52,508
当年度収入額	21,621,000	23,319,120	1,698,120
前年度繰越額	8,815,407	8,815,407	0
収入合計額	30,436,407	① 32,134,527	1,698,120

### <支出(円)>

項目	予算額	決算額	差額
事業費	11,495,000	11,630,805	135,805
総会・第99期生歓迎会	800,000	75,980	△ 724,020
新聞・名簿印刷費	5,570,000	6,349,618	779,618
刊行物送付費	2,200,000	2,209,526	9,526
記念品費	50,000	50,000	0
大学支援助成費等	900,000	1,198,220	298,220
Webサイト維持・更新費	150,000	109,120	△ 40,880
研究助成費(フラテ賞)	1,080,000	1,088,341	8,341
学生表彰費(会長賞)	110,000	0	△ 110,000
会員登録システム改修費	500,000	550,000	50,000
寄附者感謝状(楯)作成費	135,000	0	△ 135,000
総務費	10,170,000	10,008,146	△ 161,854
人件費	5,100,000	5,065,818	△ 34,182
諸保険事業主負担	850,000	716,337	△ 133,663
諸謝金	30,000	30,000	0
会議費	150,000	150,622	622
渉外費	50,000	3,624	△ 46,376
旅費交通費	150,000	86,710	△ 63,290
印刷費・会費請求書作成費	2,300,000	2,615,547	315,547
通信費	330,000	295,333	△ 34,667
消耗品費	220,000	233,085	13,085
備品購入費	300,000	214,604	△ 85,396
振込手数料	690,000	596,466	△ 93,534
その他	1,200,000	1,200,000	0
特別会計へ繰入	1,200,000	1,200,000	0
予備費	100,000	0	△ 100,000
当年度支出額	22,965,000	② 22,838,951	△ 126,049
収支差額(繰越額)	7,471,407	③ 9,295,576	1,824,169

次年度繰越額(①-②=③)



令和4年度 北海道大学医学部同窓会 特別会計報告書

令和5年3月31日

Table with 7 columns: 銀行名, 預金の種類, 令和3年度(04.3.31)預金額, 期間受入額, 期間利息, 令和4年度(05.3.31)預金額, 備考. Rows include 三菱UFJ信託銀行, 三井住友信託銀行, 北洋銀行, and a total row.

令和4年度 会計監査報告書

北海道大学医学部同窓会監事として、会則第10条第4項の規定に基づき、令和4年度会計収支決算状況の監査を実施した。監査の結果、出納簿及び関係書類の整備、並びに特別会計の預金等の会計処理は、適切かつ正確に行われているものと認めた。従って、令和4年度の北海道大学医学部同窓会の会計処理は、決算書のとおり正当であると認めるものである。

令和5年4月11日 監事 山崎 美和子
令和5年4月12日 監事 橋野 聡

北海道大学医学部同窓会
会長 浅香 正博 殿



第100期生を歓迎して

北海道大学医学部同窓会会長 浅香 正博(48期)



医学部100期の皆さん、ご卒業誠にありがとうございます。北海道大学医学部同窓会は皆さんの卒業を心より歓迎いたします。医学部同窓会は北海道大学医学部の創設後約40年経過した1960年に発足し、現在7000名に近い数の会員から成り立っています。会員数が急速に増えたのは、2014年4月より、医学部入学時に同窓会員になっていただく制度が導入されてからです。君たち100

期生は北大医学部入学と同時に同窓会に入会してくれておりますので、同窓会はすでに身近なものになっていると思います。4年前より思いもかけなかった新型コロナウイルス感染症の蔓延のため、医学部においても対面授業がオンライン授業に変更になり、臨床実習も十分なものではなく、皆さん方は大変なご苦労をされたと拝察しております。このような状況にも関わらず、

無事に卒業されたことに心より祝意を表したいと思います。

君たちがこれから入っていく医療界は日進月歩の世界であります。したがって卒業してからもしっかりと学び続けることがきわめて重要といえます。人から感謝されることが実感できる医師という職業はやりがいのある仕事ですので、将来君たちが年を経て人生を振り返ったときに充実感を感じることができるようそれぞれがしっかりとした人生設計を建てて前に進んで行っていただきたいと思います。

北海道大学医学部は2019年に創立100周年を迎えました。医学部同窓会の念願であった百年記念館も完成し、様々

な展示物から北大医学部の歴史に触れることができるようになりました。100期生の皆さんは、北大医学部100周年に符合した素晴らしい卒業期にあたっております。そのため、周囲からも期待に満ちた眼で見られることは必須と思われるので、それに応えられるような活躍を望んでおります。

北海道大学医学部同窓会は、卒業された100期の皆さんに対し、同窓会をあげてできる限りの支援をいたしたいと考えております。なお同窓会の活動はすべて同窓会員から集めた同窓会費で賄われております。毎年の入金を忘れないようくれぐれもよろしくお願いいたします。

第100期生代表挨拶

田中 百香(100期)



この度、第100期生114名が北海道大学医学部同窓会の一員となりました。僭越ながら、114名を代表し、ご挨拶申し上げます。2019年に創立100周年を迎えました本学医学部ですが、その記念すべき第100期生として、このような長い歴史と伝統を誇る同窓会の一員となることを大変嬉しく思います。

先日はお忙しい中、私たち100期生のために盛大な新入会員歓迎会を開催していただき誠にありがとうございます

た。4年ぶりに百年記念会館にて開催された歓迎会は、多くの先生方にお集まりいただき、本学同窓会が歩んできた長い歴史を感じる会でありました。新入会員として私たちを温かく迎えてくださった先生方に心より御礼申し上げます。

さて、6年間の学生生活を振り返りますと貴重な経験で充実した時間であったように思います。講義や実習を通して、幅広い分野で活躍されている先生方からご教授いただいた経験は、医学への

さらなる興味を養い、私たちが解決すべき課題を認識する機会となりました。また、臨床実習では患者さんを理解し寄り添うことの難しさを痛感するとともに、臨床医学の深みに触れ、医師としての役割を改めて考える貴重な時間となったと感じております。私たちの学生生活の大半は新型コロナウイルスの影響下にありましたが、困難な状況においても、このような多くの経験や学びを得ることができたのは先生方のお力添えあってのことと思います。ご尽力いただきましたすべての先生方にこの場をお借りして厚く御礼申し上げます。

この春から私たちはそれぞれの道を歩み始めました。医師としてのスタートラインに立った喜びとともに、人の

命を担う仕事の責任の重みを強く感じております。医療は常に人の健康と幸せのためにあるものです。私たちはその一端を担えるよう、初心を忘れず誠実で謙虚な姿勢で生涯学び続けていきたいと思っております。また、どのような困難な状況にあっても、本学で培ってきた経験や知識、フロンティア精神を胸に医療を通して社会貢献できるように精進して参ります。諸先生方には、この先も様々な場面でお世話になることと存じますが、今後とも変わらぬご指導ご鞭撻を賜りますようお願い申し上げます。

最後になりますが、北海道大学医学部同窓会のさらなる発展と諸先生方の益々のご活躍をお祈りして、入会のご挨拶とさせていただきます。

第100期生名簿(114名)

※( )は勤務先等(予定)

Table with 5 columns listing names of 100th anniversary students and their workplaces. Includes names like 会津 峻, 太田 帆香, 佐古 結基, etc.

※勤務先等(予定)は本人から承得た場合のみ掲載しています。

# 令和5年度同窓会会長賞報告

本賞は、次の一に該当する医学部医学科を卒業する学生を顕彰することを目的に、平成27年度に創設されました。

- (1) 学業成績に対する表彰  
学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れた者 3名以内
- (2) 研究活動に対する表彰  
学会、学会誌等で優れた評価を受けた者
- (3) 課外活動に対する表彰  
全国規模の競技会、コンクール等で優勝した団体の主将、または個人
- (4) 社会貢献に対する表彰

ボランティア活動、人命救助、災害救援等の社会活動において、活動実績が認められ、他の学生の模範となった者

- (5) その他の活動等に対する表彰  
その他前4号に準ずるもので、同窓会会長賞にふさわしいと認められる者
- 受賞者は、毎年2月に医学部長から推薦された候補者について選考し、第9回目となる令和5年度は次の6名を受賞者として決定しました。  
授賞式は3月25日（月）に同窓会長か

ら表彰楯が贈呈されました。

- (1) 学業成績に対する表彰  
田中 百香  
水藤 達貴  
菊地 光太郎

【授賞理由】在学中の学業成績が特に優秀で、かつ、人格に優れている。

- (2) 研究活動に対する表彰  
佐々木 美羽

【授賞理由】在学中に腫瘍病理学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭著者として英文症例報告を執筆し日本病理学会総会など複数の学会で発表し高い評価を得た。

小澤 史弥

【授賞理由】在学中に細胞生理学教室において熱心に研究に取り組みその成果を共著者として原著論文で学術雑誌に発表し高い評価を得た。

春原 怜史

【授賞理由】在学中に公衆衛生学教室において熱心に研究に取り組みその成果を筆頭著者として査読付国際学術誌に発表し高い評価を得た。

## 第106期生代表ご挨拶



上杉 宗也(106期)

この度、第106期生として北海道大学医学部医学科に入学しました、新入生代表の上杉宗也です。伝統ある北海道大学で6年間勉学に励むことができることを心より嬉しく思います。また、北海道大学の一員として私たちを迎えてく

ださった教職員、これまで支えてくださった家族や先生方に御礼申し上げます。

さて、昨年より新型コロナウイルス感染症が5類感染症に移行し行動の制限が緩和されました。北海道大学では対

面授業が多くなり、行事等も実施できるようになりました。さらに今年からは新入生が一堂に会した入学式も行うことができました。

現在のような制限が緩和された状況がこの先も続くとは限りません。以前は当たり前だったことが今では恵まれた状況であると感じる方も多いのではないのでしょうか。

多種多様な価値観を持つ仲間たちと共に学べることは私が北海道大学を選んだ理由の一つです。この出会いを大

切にして交流の場に積極的に参加し、医師として必要なコミュニケーション能力を磨き、患者さんの思いに寄り添える医師を目指したいです。

また、医療従事者としての知識や技術の習得はもちろんのこと、大学生活の中で様々なことに挑戦し、今までになかったスキルを身につけ世界の医療への貢献へと繋げていきたいです。以上で代表挨拶とさせていただきます。

## 令和6年4月 1年次入学者名簿(90名)

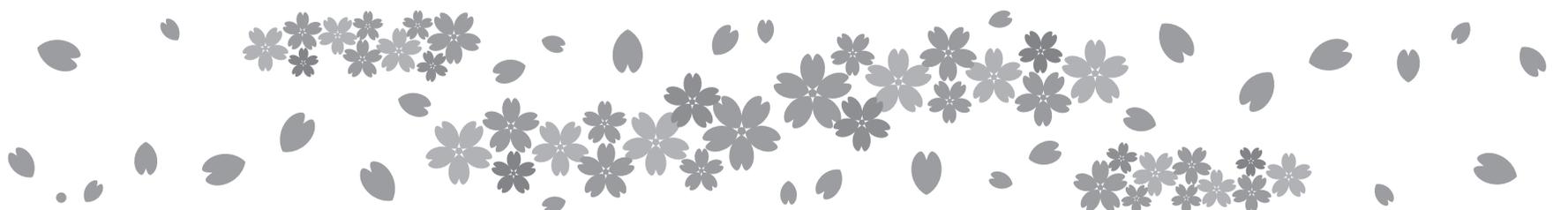
氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
上杉 宗也	釧路湖陵高校	中山 柊生	土佐高校	小館 優介	開成高校	山口竜乃助	岐阜北高校	吉田 慧	栄光学園高校	阿部 成吾	帝塚山高校
鄭 海岳	北嶺高校	柿沼慶十郎	海城高校	増岡 滉人	海城高校	明田 紗英	札幌南高校	川本 咲	千葉高校	高島 優斗	札幌日大高校
飯谷明日香	湘南高校	原田 優	旭川東高校	小林 奏翔	旭川東高校	齋藤 耕輔	浜松北高校	清水 大地	小山台高校	塚田 遼	新潟高校
上田 結也	筑紫丘高校	河村 明	前橋高校	町野 泰斗	札幌南高校	山田 健斗	専修大学松戸高校	米沢 祐亮	札幌南高校	安藤 春音	横浜緑ヶ丘高校
寺下 響	札幌光星高校	平賀 斗偉	札幌南高校	小林 杏輔	静岡高校	浅見 花	加藤学園暁秀高校	今渡 愛理	札幌南高校	辰見 和亮	西大和学園高校
古屋敷華蓮	洛南高校	氣田 有成	札幌大谷高校	松本 慧太	白陵高校	斎藤 光矢	芝高校	清水 陽介	高田高校	手塚 晴楓	旭川北高校
内山田英太郎	ラ・サール高校	平田 晴幹	芝浦工大附属高校	小林 拓磨	北嶺高校	山田 大智	昭和薬科大学附属高校	和澤 依央	札幌南高校	井岡 大知	洛西高校
富樫 幹彦	北嶺高校	久保 虹太	帯広柏葉高校	村上航一朗	北嶺高校	浅見 祐菜	浜松北高校	櫻井 美緒	札幌南高校	谷口 環	川越東高校
大久保雄哉	常総学院高校	深戸 健生	札幌南高校	近藤信之介	甲陵高校	櫻井 創太		志村 瑞樹	清風南海高校	中尾 悠愛	高岡高校
徳嶋幸太郎	青稜高校	小池 昊	北嶺高校	守屋 輝陽	北嶺高校	山本 剛裕	早稲田高校	渡部 晃大	姫路西高校	井上 心陽	北嶺高校
大野 太郎	本郷高校	福本 誠樹	浅野高校	近藤りおん	開成高校	五十嵐小春	札幌南高校	庄司 宗矢	灘高校	千葉 寛明	駒場東邦高校
利岡 遼祐	清風南海高校	小坂 大祐	札幌北高校	柳井 宇利	八王子東高校	佐藤 優成	函館ラ・サール高校	田代 歩愛	旭川東高校	中島 桜	札幌南高校
岡下 大希	札幌東高校	藤本 一信	玉川学園高等部	後藤 勇祇	旭川東高校	吉井 太一	戸山高校	赤川 遼	聖光学院高校	今木 渚	聖光学院高校
中原 優介	帯広柏葉高校	小坂 優輝	日比谷高校	矢内 拓帆	東海高校	伊藤 美桜	滝高校	瀬良 峻	帝京大学高校	対馬 匡洋	札幌南高校
小野 幸啓	岡山白陵高校	藤原 侑平	本郷高校	五明 陽輝	南多摩中等教育学校	島村 拓実	北野高校	丹山 愛花	立命館慶祥高校	二宮 史帆	旭川東高校

## 令和6年4月 2年次進級者名簿(10名) ※総合教育部から移行

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
高橋 元気	札幌東高校	今井 彬人		謝 漢陽	川越東高校	三木 果恋		棟方 瑠南	早稲田大阪向陽台高校
杉中 佑圭	札幌北高校	田島 楓規		荒木 輝	東京学芸大附属高校	原 爽馬	厚木高校	和田 幹葵	クラーク記念国際高校

## 令和6年4月 2年次学士編入学者名簿(5名)

氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校	氏名	出身校
塚本千佳子		山下 桃子	北海道大学	市村 勇磨		佐伯 奈菜	千葉大学	広田 悠仁	北海道大学



## 教授退任のご挨拶



北海道大学病院  
病理診断科  
教授  
まつ の 吉宏  
松野 吉宏  
(59期)

令和5年12月末日をもって北海道大学病院・病理診断科教授を退任いたしました。平成19年4月着任以来16年9か月にわたり、当院にとって初めての病院専任の病理部長・教授として全力で務めて参りました。この間、同窓会会員の先生方をはじめ、関係の皆様がたくさん叱咤激励とご支援を賜りました。その一つひとつに重みを感じながらも、

その場で謝意をお伝えすることは必ずしもできませんでしたが、この場をお借りして改めて厚く御礼申し上げます。

診療現場で求められる病理診断は、病理解剖診断とは似て非なるものです。目の前の患者に向き合い、これからの治療方針を模索する臨床医がいま本当に知りたいことは何か。病理医は自らの病理診断が、外科医の手を通じ、内科医の選択判断を通じて患者をどの方向に導くことになるかを洞察し、限られた時間と検体を有効に活用し、過剰でも不足でもない確実な診断情報を最大限引き出す。そして最も確かなことばで診断やその意味、限界、考察を伝

える。病院で毎日行われているこうした病理診断は「外科病理学 surgical pathology」と呼ばれ、「病理学」あるいは「診断病理学 diagnostic pathology」の中でも一層専門性の高い分野です。優れた外科病理学の実践や信頼される外科病理医の育成のためには、内科医や外科医などと同様に、経験豊富な指導者のもとでの厳しい研鑽が必須であることは当然です。小生もこの16年余、当院をそのような実践と人材育成の場にするために奮闘してきたつもりです。手術部のご理解のもと手術検体整理室を設置して病理部管理とし、立会切り出し、カンファレンスや顕微鏡サイド

での討論などを通じて臨床医との接点を尊重し、小生自身もスクラブを着て、若いスタッフや専攻医とともに現場に立つことを自らに課してきました。それでも今その場を去るにあたり、達成感とともに期待に十分応えられなかった思いも多く残っています。

17年前、北海道大学病院は明確で強い意志をもって外科病理学の分野での新たなスタートを切りました。そこに着任した小生自身の至らなさ故に、当時の意志が忘れ去られることなきよう、当院の外科病理学の時計の針が逆方向でなく、さらに前に進められるよう祈っております。何よりも患者さんのために。



精神医学教室  
教授  
く すみ いちろう  
久住 一郎  
(60期)

この度、2024年3月をもちまして精神医学教室教授を定年退職いたしました。1984年に北大医学部を卒業し、精神医学教室に入局してから40年、教授職を拝命してから約11年半の長きにわたり、多くの良き先輩、同僚、後輩に支えられて、大過なく務めを全うさせていただきましたことに心から感謝申し上げます。入局時は、山下 格先生が教室を主

催されておりましたが、その名人芸とも言える洗練された診察に陪席させていただき、食い入るよう診療場面を見つめていたことがつい昨日のこのように思い出されます。

その後は、室蘭市立病院で浅野 裕先生に厳しく研修のご指導をいただき、東京の国立精神・神経センター神経研究所では、三国雅彦先生に一から動物実験の手ほどきを受けました。北大に帰局後は、研究・教育・臨床全般にわたって小山 司先生に大変懇切丁寧なご指導をいただきました。私自身、多くの素晴らしい指導者に会えることができ、今日まで育てていただきましたことに

心から感謝しております。

ただ、2012年に当教室を小山先生から引き継ぐことになった折には、伝統と実績を有する、この教室を本当にこれから担っていくことができるのかという大変なプレッシャーを受けたことも事実です。ちょうどその時期に、札幌市の児童精神科医療をどう立て直していくか、すぐに対応しなければならぬ事態が発生しましたが、北大医学研究院に札幌市の寄付による児童思春期精神医学の寄附講座を新設することで、なんとか危機を乗り切ることができました。一方、小山教授時代からの懸案であった、北海道における医療観

察法指定入院医療機関の開設については、なかなか進展せずに苦勞しましたが、なんとか2022年4月に司法精神医療センター（分院）の開設に漕ぎ着けることができ、現在まで順調な運用を続けております。同センターには、質の高い医療観察法医療の遂行は勿論のこと、全国初の大学病院設置ということもありますので、わが国の司法精神医学・医療を牽引する役割を担ってほしいと期待しております。

これからは、北大の外に身を置くこととなりますが、北大の今後ますますの発展を祈念しながら楽しみに見守っていきたいと思います。



腎泌尿器外科学  
教室 教授  
しの ぼる のぶお  
篠原 信雄  
(60期)

Where there's will, there's a way!  
どんな困難な道でも、それをやり遂げる意志さえあれば必ず道は開かれる

Abraham Lincoln

猛威を振るったコロナ禍による医療の混乱も2023年内で概ねおちつきを取り戻し、社会・経済活動もコロナ前の状況にもどっております。我々も2023年10月5-7日にロイトン札幌で、全国から約1600名の参加者を集め、対面で日

本泌尿器科学会東部総会を成功裏に終えることができました。参加者数、演題数などはコロナ前より多いぐらいでした。

私も2023年11月24日に65歳の誕生日を迎え、いよいよ2024年3月末日で北海道大学大学院医学研究院 腎泌尿器外科学教室 教授を退職することになりました。2014年10月2日付で、教授に任じられてから、9年半の在任期間となりました。その間に、北海道大学医学部の教務委員長を2年、副研究院長（北海道大学教育・研究評議会委員も併任）を2年勤め、大学の運営に携わってきました。また、後半は主に北海道大学病院での業務を行い、血液浄化部部長や北

海道大学病院腫瘍センター長に加え、新規に組織された北海道大学病院高難度新規医療技術部門の部門長を長く続けさせていただきました。本当に多くの方のご助力のもと、無事多くの職責を果たせたものと心から感謝しております。

教授就任後、臨床面で最も熱心に取り組んだのが、手術支援ロボット（ダビンチ）の導入と実践でした。泌尿器科医師、麻酔科医師、看護スタッフ、臨床工学士など手術部のスタッフの協力のおかげで安全に導入でき、手術件数も増加させることができました。その後、消化器外科、呼吸器外科、産婦人科などの手術にも適応が拡大され、

手術件数は増加、年間300件以上にまで到達しました。

最後になりましたが、腎泌尿器外科学教室の教授であった9年半は、自分の人生を振り返っても本当に幸せな、珠玉の時間でした。安部准教授を含め、多くの泌尿器科スタッフが自分を助けてくれたおかげだと思っています。同時に自分を支えてくれた医局秘書の皆さん、技術職員の方々、さらに北海道大学病院の8-1の看護スタッフ、泌尿器科外来のスタッフの方に心から感謝いたします。4月からは釧路労災病院において道東の地域医療の実践に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

## 教授就任のご挨拶



北海道大学病院  
小児成人移行期医療  
支援センター 教授  
ちよう こ  
長 祐子  
(66期)

この度、令和6年4月1日付で北海道大学病院小児成人移行期医療支援センター教授を拝命しました長祐子と申します。謹んで新任のご挨拶を申し上げます。当センターは小児期発症の慢性疾患患者さんに対し、小児期から成人

期へと生涯を通じたシームレスな医療を提供すべく令和4年に当院に設立されました。真部淳教授（北海道大学大学院医学研究院 生殖・発達医学分野 小児科学教室）がセンター部長として牽引してこられたこの比較的新しいセンターの基盤を専任の教授として発展させていくことが私に課せられた責務と考えております。

私自身は平成2年に北海道大学医学部を卒業後まもなくに研修先の病院で多くの小児がんの子どもたちとの出会い

があり、サブスペシャリティを小児がんに定めて過去30年間、主に北海道がんセンター、北海道大学病院で小児がん診療にあたってまいりました。私が研修医の頃は小児がんを治癒せしめることだけに医療者の意識が集中していたように感じられますが、集学的治療により長期生存を果たしたサバイバーの方々が、その後も過去の治療に起因すると思われる様々な困難（晩期合併症）に遭遇するということが近年明らかになってまいりました。それは思

春期から顕在化する性腺機能障害や、糖代謝異常、高血圧・心筋障害などの循環器系の問題、認知機能・運動機能低下による学習障害や就職困難など多岐に渡ります。また晩期合併症の一部が生活習慣病に似た病状を示呈することや年齢とともに誰しもが経験する病態が重なることも少なくありません。そのため小児科医の視点のみでは長期的な健康管理は難しく、適切な時期に成人診療科の視点からも患者さんを診療することができる医療体制を整える

ことが重要と考えられるようになりま  
した。

実は、この晩期合併症の問題は小児  
がんに限らず、小児領域の慢性疾患全

てに共通しています。スムーズな移行  
期医療実現のためには早期からの患者  
教育と患者自立(自律)促進プログラム、  
具体的かつ効率的な移行システムの構

築、医療費助成の問題、受け手となる  
成人領域科との管理方針の相互理解や  
密な連携、マンパワーの問題など課題  
は山積しておりますが、当センターの

活動がより充実したものになるよう各  
ご専門の先生がたのお力添えをいただ  
きながら進んでまいりたいと存じます。



北海道大学病院  
地域医療連携福祉  
センター教授・センター長  
さかきばら 純  
(72期)

この度、令和6年4月1日付で北海道大  
学病院地域医療連携福祉センター教授・  
センター長を拝命いたしました。ここ  
に謹んで新任のご挨拶を申し上げます。  
当センターは、平成17年4月に地域医療  
連携部という名称で設立され翌年に医  
療福祉相談室と合体し現在の地域医療  
連携福祉センターとなっております。  
地域医療および福祉・保健機関とのネッ

トワークを構築し、医療・福祉の向上  
に貢献することを理念とし患者さんに  
よりよい質の高い安心した医療を提供  
できるよう活動しております。

私は、平成8年に北海道大学医学部を  
卒業後北海道大学病院第一内科学教室  
(現在の呼吸器内科学教室)に入局いた  
しました。入局後は北海道内の関連病  
院で一般内科、呼吸器内科の研修を行  
わせていただきました。その後北海道  
大学大学院医学研究科で学位取得後、  
平成17年から3年間米Vanderbilt大学  
でNotch pathwayの研究を行いました。  
帰国後は北海道大学病院呼吸器内科で  
主に肺癌の診療、新規治療の開発や、

大学院生の指導を行いながら肺癌にお  
けるNotch pathwayを中心とした研究を  
行ってまいりました。

北海道大学病院地域医療連携福祉セ  
ンターは医師、歯科医師、看護師、社  
会福祉士から構成されております。主  
な業務内容としましては患者さんの退  
院調整、在宅調整、逆紹介、かかりつ  
け医の相談、訪問看護指示書管理等の  
文書管理、広報活動、地域医療連携、  
研修に関する業務等多岐にわたります。  
特に退院調整の依頼は年々増加してお  
ります。また調整を依頼される疾患も  
腫瘍が半数以上を占めますがその他に  
神経、整形外科、脳血管疾患など多種

多様であり個々の対応が必要とされてお  
ります。また北海道大学病院の特徴とし  
てすべての科において通常診療に加え先  
進的な臨床研究、治験を数多く行い患者  
さんの診療に大きく貢献しておりますが、  
このような診療は北海道大学病院の  
みで完結するものではなく地域医療との  
密接な連携が必要であり当センターの役  
割は一層重要となっております。

このようにこれからも地域医療連携  
福祉センターが多くのお力を果たせる  
ように円滑な運営に尽力したいと考  
えております。同窓会の皆様には今後  
のご指導、ご鞭撻を賜りますようどうぞ  
よろしくお願い申し上げます。



北海道大学病院  
光学医療診療部  
教授  
おの 尚  
高 (会員2)

この度、2024年4月1日付で北海道大  
学病院光学医療診療部教授を拝命いた  
しました。北海道大学病院光学医療診  
療部は1999年に病院の中央臨床部門と  
して開設され、本年で25周年を迎えま  
す。開設以来、第三内科浅香正博先代

教授、加藤元嗣先生(現対がん協会会  
長)、清水勇一先生(現北海道医療セン  
ター)が部長を務められ、大きな発展  
を遂げて参りましたが、2021年より私  
が部長を引き継いでおります。この度、  
25周年という節目の年に、光学医療診  
療部の専任教授を拝命し、大変光栄で  
あるとともに身の引き締まる思いでご  
ざいます。

私は1997年に弘前大学医学部を卒業  
後、北海道大学病院の臨床研修医を経  
て第三内科(現消化器内科)に入局し

ました。関連病院での研修ののち、  
2003年に大学院生として北海道大学に  
入学して以後、出産育児をしながら博  
士号を取得し、現在まで北海道大学病  
院で内視鏡診療に邁進してまいりまし  
た。これまでご支援いただきました皆  
様に心より感謝申し上げます。光学医  
療診療部では消化器内視鏡検査と気管  
支鏡検査を中心に診療を行ってしま  
すが、近年はともに高難度の手技も開発  
されまだまだ発展途上でございます。  
また耳鼻咽喉科や消化器外科などの診

療科と連携することにより、より低侵  
襲な治療を開発し提供することも光学  
医療診療部の役目だと思っております。  
新病院への移行をみすえ、さらに皆様  
のお力添えのもと、北海道大学病院光  
学医療診療部の発展と次世代への人材  
育成に取り組んでいく所存でございま  
す。北大医学部同窓会の諸先生方にお  
かれましては、今後ともご指導ご鞭撻  
をいただけますよう何卒よろしくお願い  
いたします。



北海道大学病院  
血液浄化部  
教授  
にしお 妙  
織 (会員2)

本年4月1日付で北海道大学病院血液  
浄化部の教授を拝命しました西尾妙織  
と申します。これまで血液浄化部は北  
海道大学病院の中央診療部門の中に  
あり、現在は篠原信雄教授(北海道大  
学大学院医学研究院腎泌尿器外科学教  
室)が兼任で部長をされております。こ  
の度、女性教授増加の加速アクションプ

ランにより、この部門に教授が新設さ  
れました。初代の教授として着任させ  
ていただくこと、大変光栄に感じてお  
ります。

私は1994年に旭川医科大学を卒業し、  
第二内科に入局させていただきました。  
大学や道内の関連病院で内科医として  
研修した後に腎臓内科・血液浄化を専  
門分野として選択し、臨床・研究に取  
り組んで参りました。平成16年には常  
染色体顕性(優性)多発性嚢胞腎  
(ADPKD)の研究で北海道大学大学院医  
学研究科病態制御学専攻博士課程を修  
了し、学位を取得。平成17年4月から米

国・Yale大学のADPKD研究の第一人者  
であるDr. Somloの教室に留学し、  
ADPKDの病態・治療法開発の研究に携  
わりました。平成19年6月に帰国後は第  
二内科(現：リウマチ・腎臓内科)で、  
腎疾患の治療、慢性腎臓病の疾患啓発・  
予防、急性期・慢性期の血液浄化療法  
等に関して診療に励み、ADPKDに関し  
ては、新規治療薬の開発を中心に基礎  
研究を続けております。また、医学部  
学生や大学院生への教育も積極的に  
行っており、学位取得や腎臓や透析の  
専門医の輩出にも取り組んでおります。  
本院の血液浄化部は慢性腎不全患者

に対する血液透析はもとより、術後・  
化学療法などが原因でおこる急性腎障  
害(AKI)に対する透析療法、血症交換、  
炎症性腸疾患に対するGCAP療法など、  
多岐にわたる疾患に対しての血液浄化  
を行う部門です。血液浄化部が充実し  
ているからこそ治療に対応できる疾患  
は非常に多く、高度な医療を行う上で  
必要な部門となります。臨床工学士、  
看護師と協力し、より多くの診療科の  
治療のサポートをし、本院の医療に貢  
献させていただきたく覚悟でおります。今  
後ともご指導ご鞭撻いただけますよう  
どうぞよろしくお願い申し上げます。

## 令和5年度フラテ研究奨励賞報告

選考委員会委員長  
わたなべ まさひこ  
渡邊 雅彦(会員2)

令和5年度フラテ研究奨励賞には7件  
の応募があり、各委員が事前に応募者  
全員の研究業績を審査し、昨年12月10  
日に開催した選考委員会で、研究業績、  
研究計画の発展性等について多様な観

点から審査を行った結果、次の4名を受  
賞者として決定しました。

授賞式は本年2月5日に医学部百年記  
念館で行い、浅香正博同窓会長(48期)  
から表彰楯及び研究奨励金が贈呈され

ました。

本賞は、医学部同窓会の若手会員(応  
募の年度末で40歳未満)に対し、創造  
的研究の育成に資することを目的に創  
設されたものであります。平成15年度

の第1回から数えて第21回となる今回  
の受賞者を含めてこれまでに87名の方  
々を顕彰し、その多くが受賞後も輝か  
しい研究業績を挙げています。



北海道大学大学院  
医学研究院  
消化器外科学教室I  
ふじい ゆう  
貴 (86期)

研究課題：転移性膵癌に対する新  
規分子標的治療の開発

これまでの研究成果が令和5年度フラ  
テ研究奨励賞という榮譽ある賞に選出  
され、今年一番の嬉しい知らせとなり  
ました。この場を借りて選考委員なら  
びに同窓会の先生方、事務局の皆様  
に感謝申し上げます。

本研究は私の大学院生時代に行った  
ものです。同教室の水上達三先生、松  
澤文彦先生からプロジェクトを引き継  
ぎ、メソテリンという膜タンパクを標  
的とした進行膵癌に対する新規分子標  
的療法を開発を行いました。膵癌は他

癌腫と比べいまだに決定的な治療法  
がなく、切除後も5年生存率が20%程  
度と非常に予後不良です。メソテリン  
は膵癌に高発現し、CA125と結合する  
ことで細胞間接着、癌幹細胞への脱分  
化に寄与します。私は、膵癌の肝転  
移マウスモデルを用い、メソテリンに  
対する新規治療抗体アマツキシマブ  
の治療効果を観察しました。結果、同  
抗体は膵癌の肝転移形成を抑制する  
だけでなく、c-Met、Aktという癌代  
謝の根幹となるシグナルを抑制し、  
ゲムシタピンと併

用することで腫瘍量を著明に減少させ  
ました。これらの結果より、アマツキ  
シマブの術後補助療法への応用が期待  
されます。

メソテリン、アマツキシマブに関す  
る一連の研究は国内外で広く引用さ  
れており、インパクトのあるプロジェ  
クトの一角を担ったことを大変光栄に  
思います。このプロジェクトを率いて  
くださった蒲池浩文先生、武富紹信  
教授をはじめ、当教室の皆様にご支  
援を申し上げます。



北海道大学大学院  
医学研究院  
皮膚科  
高島 翔太  
(88期)

研究課題：選択的スライシングが制御する表皮角化細胞分化機構の解明

この度は伝統ある令和5年度北海道大学医学部同窓会フラテ研究奨励賞を拝受し、大変光栄に存じます。選考委員及び北大医学部同窓会の諸先生方に深く御礼申し上げます。人体に存在するほとんどの遺伝子は選択的スライシングの影響を受けて多様なタンパクを合成することが知られております。これまで臓器別でスライシングの差があることは知られておりますが、本研

究では皮膚という同一臓器内でも分化の過程でスライシングが重要な役割を有していることを見出しました。表皮角化細胞の分化は選択的スライシングで制御されており、またスライシングの制御はRNA binding proteinにより行われていることが明らかになりました。以上のことから皮膚の恒常性維持にはスライシングが重要であり、これまで原因不明であった皮膚疾患の

病態にもスライシングの異常が関与していることが推測されます。今後は皮膚疾患とスライシングとの関連に着目し、病態の解明と治療法の開発に繋げていければと思っております。最後になりますが、この受賞を励みとして一層研究活動、また教育活動に邁進したいと思っております。今後ともご指導・ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。



北海道大学病院  
整形外科  
横田 隼一  
(90期)

研究課題：股関節破壊をきたす疾患の病態解明と新規治療について

この度は栄誉ある本賞をいただき、誠にありがとうございます。本賞の選考に携わった先生方に深く御礼申し上げます。本賞をいただいた研究課題である股関節破壊をきたす疾患について、以下の4つの柱を基に研究を行いました。①「脆弱性骨折を基盤として生じる関節破壊のメカニズム」、②「難病である大腿骨頭壊死症に関する病態解明」、③「人工関節の無菌性緩みの制御」④「脆弱性骨折の原因となる骨粗鬆症の制御」に分

けて、臨床研究、手術時臨床サンプルを用いた病態解析、バイオマテリアル、バイオインフォマティクス、分子生物学的なアプローチによる基礎研究を統合して、5本の研究論文として成果を得ました。股関節は、骨粗鬆症やステロイド使用などの全身代謝の影響を強く受け、日常生活を支える人体の中で最大の荷重関節です。これらの研究が、今後関節破壊を効果的に予防し、生活の質の向上に繋がる基盤となることを望んで

おります。最後になりましたが、本研究の遂行にあたりご指導賜りました整形外科学教室の岩崎倫政教授、高橋大介講師、清水智弘先生、照川アラー先生、股関節班・共同研究者の皆様方に心より御礼申し上げます。皆様よりご教示いただきました「臨床能力を磨きながらも、研究視点を常にもっておくこと」の重要性を忘れずに今後も精進して参りたいと存じます。今後ともご指導・ご鞭撻の程、よろしくお願申し上げます。



北海道大学大学院  
医学研究院  
血液内科学教室  
千丈 創  
(91期)

研究課題：造血幹細胞移植後のドナー T細胞疲弊をターゲットとした新規治療開発

この度は、大変栄誉あるフラテ研究奨励賞を授与していただき、心から感謝申し上げます。私は、白血病をはじめとした血液悪性腫瘍患者の救命のために、造血幹細胞移植、特に同種移植成績の向上を目指した研究を行っております。本研究では、同種移植後のT細胞の「疲弊」と、免疫抑制薬との関連を報告しました。慢性GVHDは同種移植後の重要な合併症であり、発症予防目的にカルシニューリン阻害薬が標準的に用い

られていますが、予防効果は限定的で、その原因究明が同種移植における最重要課題とされてきました。今回、同種移植後にカルシニューリン阻害薬を投与することで、T細胞疲弊の誘導分子であるTOXの発現が抑制され、T細胞疲弊が最後まで進みきらない「一過性疲弊T細胞」が誘導されることを発見しました。この細胞は、GVHD発症と同時に、再発予防につながるGVL効果を増強する機能を持ち、臨床応用によって同種移植の有効性と安全性の向上に繋がる

と考えております。私は医学生時代、バスケットボールを通じて生命の素晴らしさを実感し、授業では基礎免疫学に興味を持ち、同窓の先輩方に憧憬を抱きながら、いつか私も免疫と救命の融合に貢献したいと考えて、臨床と研究に取り組んできました。引き続き尽力したく存じます。血液内科学へ導いて下さった豊嶋崇徳教授、本研究の御指導を頂いた橋本大吾准教授をはじめ、携わって下さった皆様に心から感謝申し上げます。

## 令和6年度フラテ研究奨励賞受賞候補者の募集!!

### 《フラテ賞》

- ・令和6年度フラテ研究奨励賞受賞候補者を次のとおり募集します。
- ・本賞は、医学部同窓会若手会員の創造的研究の育成に資することを目的に創設され、平成15年度の第1回から数えて昨年度までに87名の方々が受賞しています。
- ・第22回目の募集となる今年度も、多くの会員が奮って応募されることを願っております。

### 《授賞件数等》

- ・授賞件数は5名以内、受賞者には表彰楯及び研究奨励金20万円を贈呈します。

### 《応募資格、募集期間等》

- ・応募資格 令和6年度末(令和7年3月31日)現在、40歳未満である本会

員で会費を完納している次のいずれかに該当する者とします。

- ①北大学医学部医学科を卒業した者
- ②前号以外の北大大学院医学研究院または北大大学院医学院を修了した者(応募する年度末までに修了見込みの者を含む)で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ③第1号以外の北大医学研究院の教員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者
- ④第1号以外の北大病院の教員または医員で、応募する年度の末日現在2年以上の同窓会員歴を有する者

・募集期間 令和6年10月1日から10月31日までの1ヵ月間です。

※申請書提出時において会費未納の方がおられますので、ご注意ください。

### 《応募書類等》

- ・応募書類(申請書、推薦書、業績別刷)の提出部数は6部(コピー可)とします。応募書類は一切返却しません。
- ・応募書類を封筒に入れて、「フラテ研究奨励賞応募書類在中」と朱書き、郵送または持参すること。
  - ①郵送は必ず「簡易書留」としてください。10月31日までの消印のあるものは有効とします。
  - ②郵送した場合は直ちに、応募者氏名、郵送日を電子メールにより同窓会事務局へ連絡してください。
  - ③郵送(持参)先  
〒060-8638 札幌市北区北15条西7丁目 北大医学部内  
北海道大学医学部同窓会事務局
- ・申請書は同窓会ホームページからダウンロードしてください。北大医学部同窓会で検索して、左上部の

Contents「フラテ研究奨励賞」から入ってください。

北大医学部同窓会  検索

### 《選考結果の発表、授賞式等》

- ・受賞者が決定次第、北大医学部掲示板及び同窓会ホームページで発表するとともに、応募者全員に選考結果をお知らせします。
- ・授賞式は、令和7年2月に開催する同窓会総会で行う予定です。
- ・受賞者には、授賞式への出席及び同窓会新聞への寄稿をお願いしています。
- ・ご不明の点は、同窓会事務局にお問い合わせください。  
電話 : 011-706-5007  
E-mail : furate@med.hokudai.ac.jp

## フラテ祭2024開催について

フラテ祭2024を、9月28日(土)に開催いたします。

フラテ祭は、平素からご支援をいただいております関係各位と医学部の親睦をさらに深め、医学部の現状を見ていただくことにより今後の抱負や課題を認識していただくための場として、2007年9月に第1回目を開催いたしました。

今年も第17回目として、北海道大学ホームカミングデーと同日開催いたします。北大医学部の現状をご報告すると共に「特別講演」の他、2019年以來となる「医学部・病院見学ツアー」を予定しております。なごやかな催しとなるよう準備を進めておりますので、教職員の皆様にも、ご協力およびご参

加をお願いいたします。

日時：9月28日(土) 13:00～16:00(予定)  
場所：北海道大学医学部/フラテホール  
実施概要

- ・病院・医学部見学ツアー(先着50名限定)
- ・医学部の現状・展望に関する講演
- ・病院の現状・展望に関する講演
- ・特別講演「北大だからできた新型コロナウイルス研究」

病原微生物学教室・福原崇介教授  
※プログラムの内容は一部変更となることがあります。

申し込みはこちらから



申込期限：7月31日(水)

※詳細は、同封のリーフレットもご覧ください。

医学部フラテ祭実行委員会事務局

# 令和5年度 医学研究院・大学院医学院・医学部医学科各賞受賞者

## 「特別賞」受賞



北海道大学名誉教授  
斗南病院名誉院長

かとう ひろゆき  
加藤 紘之  
(43期)

### 【社会的貢献名】

### 遺伝子分析を基盤にした最適がん外科療法の開発

本学研究院から特別賞が贈呈される  
との知らせに驚きと当惑いを覚えまし  
た。もとよりこの研究・開発は在任中

の教室スタッフ、特に大学院生が心血  
を注いだ汗の結晶であり、私の果たし  
た役割はごく一部でありました。した  
がってこの賞は本研究に関わった皆さ  
んへの頑張り賞と受け止めさせて戴き  
ます。

当時率先して研究を推進した平野教  
授が推薦文を書いてくれたとの事で、  
その一部を拝借して出来るだけ客観的  
評価に近づけたく存じます。

受賞候補となる理由：氏は技術の粋  
を凝らした癌に対する拡大手術をもっ  
てしても、その長期生存率の飛躍的向  
上には結びつかない事をprospective  
randomized control studyで明らかにして

以来、教室の研究課題の全てを癌遺伝  
子研究に集中した。本学の基礎研究室  
を中心に全国レベルの癌研究室にも大  
学院生の指導を依頼する一方で、教室  
内に高レベルの専用実験室を設置し、  
責任指導教官を配置して3～4年間の実験  
専念期間を設け見事な研究成果を挙げ  
ヒト癌への応用の道を開いた。その集  
大成は、“科学性に基づく外科学の将来  
展望”と題された2003年、第103回日本  
外科学会学術集会で会長講演として報  
告され、満場の会員に強い感銘を与え  
た。それを機に外科学にありがちな外  
科手技の伝承・応用に留まらない癌外  
科学の在り方への全国的な転換期を持

たらし功績は大きい。

教授在籍12年間の実績として、指導  
した学位取得者79名、教室員が筆頭著  
者の英文論文169編であり、北大、遺伝  
子分析で最適がん治療-900人分、デー  
タベース化・転移や生存率予測-とし  
て広く報道された。

大学を定年退職した後は斗南病院長  
として赴任し、2016年には再建困難と  
言われた同病院を見事に復活、新病院  
を完成させ研修医が毎年10数名集う教  
育関連病院を構築した。

## 「優秀研究賞」受賞



放射線治療学教室  
教授

あおやま ひろふみ  
青山 英史  
(70期)

### 【研究業績名】

### 高精度放射線治療の発展とがん治療の均てん化に資する研究

この度は栄誉ある北海道大学大学院  
医学研究院「優秀研究賞」の令和5年度

受賞者にご選出いただき、誠にありが  
とうございます。大変光栄であり、今  
後への励みとなります。

私は令和元年に、放射線科学分野の  
再編により誕生した放射線治療学教室  
に赴任しました。現在は全臓器のがん  
の臨床研究と、照射技術系の研究を統  
括する形で研究に携わっています。受  
賞研究名は「高精度放射線治療の発展  
とがん治療の均てん化に資する研究」  
にさせていただきました。照射技術の  
進歩は日進月歩で、その領域を開拓し  
ていくことは私たちの使命です。一方  
で最先端技術は地域のがん患者の方々

に還元できてはじめて意味を持ちます。  
侵襲が低く高い治療効果を持つ放射線  
はがん治療において強力な武器であり、  
治療水準の均一化という観点からも効  
率的です。日本では全がん患者に対す  
る放射線治療の利用割合が他の先進国  
の半分程度に留まるとされており、世  
界基準でみると十分に活用されている  
とは言えません。その意味で放射線治  
療の普及を目指した教育・啓蒙活動も  
広い意味で研究の一環と考え、取り組  
んでいます。

私自身が長年関わってきた研究テー  
マに「脳腫瘍に対する放射線治療後の

認知機能低下リスクの低減」がありま  
す。少数個脳転移症例の世界標準治療  
が定位照射単独治療になる流れのなか  
で少しは貢献できたのではないかと考  
えています。これからも地域における  
がん治療という視点を大切にしながら、  
積極的に研究を推進していきたいと考  
えています。同窓会の皆様におかれま  
しては、今後ともご指導、ご鞭撻のほ  
どよろしくお願い申し上げます。

## 「優秀論文賞」受賞



北海道大学病院  
皮膚科 講師

わたなべ みか  
渡邊 美佳  
(83期)

### 【論文題目】

Tissue memory relies on stem cell

priming in distal undamaged areas  
(雑誌名：Nature Cell Biology)

この度令和5年度優秀論文賞を受賞す  
ることができました。本論文はポスト  
クとして留学したイタリア・トリノ大  
学にて行った創傷治癒における毛包幹  
細胞での創傷記憶と発癌に関する研究  
になります。皮膚は体の最外層に位置  
し、生体バリアを構築し、創傷や組織  
再生に関与しています。最近、「上皮幹  
細胞の記憶」という概念が提唱され、

炎症後の上皮幹細胞が創傷などの過去  
の経験を「記憶」し、創傷治癒を促進  
することが明らかになりました。これ  
を創傷記憶と呼びます。この記憶の本  
体はオープンクロマチンであり、我々  
は本論文において特定の毛包幹細胞集  
団が創傷記憶を持ち、創傷後に移動能  
力を増強することを発見しました。創  
傷記憶は長期的に皮膚癌の発生を促し、  
広域発癌を誘発する可能性を初めて示  
しました。本研究は私ともう二人の

Biologistの5年に渡る長期間の成果です。  
研究を結実させるにあたり大変な苦勞  
がありましたが、最終的には良い結果  
を出すことができ、様々な側面に置い  
て助けてもらった家族、友人、そして  
医局の皆様にご礼申し上げます。また、  
私を快く留学へ送り出してくれた故清  
水宏名誉教授と私の帰国を待っていて  
下さった氏家英之教授に、この場を借  
りて心より感謝申し上げます。

## 「優秀論文賞」受賞



消化器外科教室Ⅱ  
大学院生博士課程

せきや しゅう  
関谷 翔  
(90期)

### 【論文題目】

*Drosophila* Screening Identifies Dual  
Inhibition of MEK and AURKB as an  
Effective Therapy for Pancreatic Ductal  
Adenocarcinoma

(雑誌名：Cancer Research)

この度は栄誉ある北海道大学医学部  
優秀論文賞を賜り大変光栄に存じます。  
本受賞に際して、選考委員、同窓会の  
先生方ならびに事務局の方々へ厚く御  
礼申し上げます。

消化器外科学教室Ⅱの大学院生とし  
て2019年の春に研究テーマを探してい  
た時に、園下将大教授が「うまい、安い、  
早い」の強みを有するショウジョウバ  
エを活用して癌の創薬に取り組んでい  
るという講演を拝聴し、これだと思い  
遺伝子病制御研究所がん制御学分野の  
門を叩きました。本研究で私は、遺伝

子改変が比較的容易なショウジョウバ  
エに、膵癌患者で頻りに観察される  
KRAS、TP53、CDKN2A、SMAD4の遺  
伝子変異を模倣した外来遺伝子を導入  
し「膵癌モデルハエ」を創出しました。  
このモデルハエは通常の飼育環境では  
羽化できず致死に至りますが、このハ  
エを活用したスクリーニングによって、  
MEK阻害薬trametinibとAURKB阻害剤  
BI-831266の併用がモデルハエの致死性  
を救済し、生存率を相乗的に改善する  
ことを見出しました。更に、両化合物  
の同時投与が膵癌移植モデルマウスに  
おいても高い抗腫瘍効果を示すことを

明らかにしました。本研究で得られた  
研究成果は、今後膵癌の治療薬開発を  
加速できると期待され、同モデルハエ  
を用いた創薬研究が現在も園下研究室  
で継続されています。

最後に、本研究の機会を与えていた  
だきました消化器外科学教室Ⅱの平野  
聡教授、直接のご指導を賜りました園  
下将大教授をはじめ、ご協力いただき  
ましたスタッフの皆様がこの場を借り  
て深く感謝申し上げます。今回の受賞  
を励みに、今後も一層研鑽を積んでま  
いります。

## 「優秀論文賞」受賞



北大大学院医学研究院  
血液内科学教室  
日本学術振興会特別研究員

ちだ けんじ  
千丈 創  
(91期)

【論文題目】  
Calcineurin inhibitor inhibits tolerance  
induction by suppressing terminal  
exhaustion of donor T cells after  
allo-HCT

(雑誌名：Blood)

この度は令和5年度優秀論文賞に選出  
いただき、大変光栄に存じます。選考  
に関わって下さった皆様へ感謝申し上  
げます。

本研究では、白血病などの血液悪性  
腫瘍に対する同種移植の有効性と安全  
性を高めることを目的に、同種移植の  
マウスモデルを用いた実験を行いました。  
具体的には、移植後にカルシニュー

リン阻害薬を投与した群と非投与群そ  
れぞれで、ドナー由来のT細胞をレシ  
ピエントマウスから抽出し、遺伝子網  
羅的解析によって、薬剤投与がドナー T  
細胞の細胞遺伝子発現に与える影響を  
検証しました。その結果、同種移植後  
のT細胞の「疲弊」が、カルシニュー  
リン阻害薬投与によって阻害され、T細胞  
が最終的な疲弊に陥りきらない「一過

性疲弊T細胞」が誘導されることを発見しました。さらに、この細胞集団が移植後の合併症である慢性GVHDの原因となると同時に、疲弊が阻害された状態で免疫チェックポイント阻害薬を用いることで、腫瘍再発に対する強い抗腫瘍効果を発揮することを見出しました。この知見により、長年の課題であった、免疫抑制下での慢性GVHDの発症機序の一つが解明されるとともに、移

植後再発に対する新たな治療戦略が示唆されました。  
本研究の機会を与えて下さった豊嶋崇徳教授、御指導いただきました橋本大吾准教授、共同研究で惜しめない御協力と貴重な御助言を賜りました分子神経免疫学教室 村上正晃教授に、心より御礼申し上げます。本受賞を励みとして、患者救命に貢献すべく、研究活動に取り組んでいく所存です。

「優秀論文賞」受賞

北海道大学病院  
感染制御部 助教

中久保 祥  
(85期)

[論文題目]  
Associations of COVID-19 symptoms with omicron subvariants BA.2 and BA.5, host status, and clinical outcomes in Japan: a registry-based observational study  
(雑誌名: Lancet Infectious Diseases)

「優秀論文賞」受賞



北海道大学大学院  
医学院 免疫学教室  
博士課程3年  
かすが ゆうすけ  
春日 優介  
(96期)

[論文題目]  
FBXO11 constitutes a major negative regulator of MHC class II through ubiquitin-dependent proteasomal degradation of CIITA

(雑誌名: Proceedings of the National Academy of sciences of the United states of America)

この度は令和5年度優秀論文賞に選出していただき、大変光栄に存じます。本研究ではMHC class IIの発現を主に制御する新しいメカニズムを解明しました。

ヒトの免疫には大きく分けて自然免疫と獲得免疫の2段階があり、まず外から侵入した病原体に対しては速やかで非特異的な自然免疫が対応します。この際に病原体の一部を取り込み、敵の情報を解析することでより特異的な

獲得免疫の活性化に繋がります。一部の免疫細胞は細胞内に取り込んだ外来抗原をMHC class IIと結合させ、ヘルパーT細胞が認識できる状態にしてから、ヘルパー T細胞に情報を伝えます。このプロセスを抗原提示と呼びます。免疫細胞がMHC class IIを発現するためには、CIITAという転写制御因子が必要なことが知られていましたが、CIITAの量をコントロールするメカニズムについては未知のままでした。我々は今回、CIITAタンパク量の新規制御因子としてFBXO11を同定しました。この新しい因子FBXO11はCIITAをユビキチン化して

分解することで、CIITAの量が過剰にならないよう調節しています。今回新たな制御因子が発見されたことで、MHC class IIを適量に整える新しい治療法の開発が期待されます。また、癌患者の予後とFBXO11の量との相関関係が解析された事により新たな癌バイオマーカーの開発も期待されます。

最後になりますが、本研究の機会を下さり支援していただきました小林先生を始めとする、関わっていただいた全ての方に感謝申し上げます。

ズームアップ⑰ SCARDA ワクチン・モダリティ事業と大学の再編成

せやつかさ  
瀬谷 司(52期)



寄稿の機会を頂いて感謝しています。コロナの猖獗に際して、内閣府が感染症対策の指令をAMEDに伝えたのが2021年6月、それから1年弱でSCARDAという感染症対策の司令塔が設置されました(2022年3月)。ワクチン拠点か5大学に置かれ、ワクチン・モダリティの大型公募が組まれました。北大は2回目の公募で領域1に人獣共通感染症国際共同研究所の喜田宏先生(ワクチン拠点の代表は澤洋文先生)、領域2に私たちのワクチンアジュバント(免疫増強剤)開発の企画が採択されました(2023年11月)。領域2は非臨床から臨床試験へ拠点化するのが努力目標です。私たちのシーズは核酸免疫増強剤(ARNAX, アルナックス)で、長く北大医学部で開発してきました。感染研の長谷川秀樹先生にもご協力頂きました。

以下ワクチンの概論です。ワクチンは抗原とアジュバント成分からなります。アジュバントを含まない抗原だけの投与だとワクチンは効かないとされ、多くのがん治療ワクチンでPhase III 棄却(=失敗)が続いているのはご存知のとおりです。これまで認可されたアジュバントは炎症を誘起し抗体価を上げる(Th2極性)ため、がんを増悪させ

る危険があり、がん治療に使えません。がんワクチンは内因抗原を標的とする治療ワクチンですから、一種の自己免疫ワクチンになります。細胞性免疫(Th1極性)を促進し、副反応(=炎症)がないのが望まれます。私たちは炎症を起こさないで免疫だけを立ち上げるアジュバントを開発するという位置付けです。PD-1抗体などチェックポイント阻害剤ががんへの適用で先行しましたが、有効性が20%程度とされ、国は免疫増強ワクチンとの併用療法を進めています。

一方、SCARDAは感染症ワクチンへ細胞性免疫が有効かを試問します。感染症では外因性の非自己抗原に対する予防ワクチンの開発です。ウイルスなどを弱毒化したり、まるまる不活化したり、の全粒子ワクチンが開発の主体でした。微生物は炎症アジュバントの成分を含むので、不活化ワクチンは感染に似た炎症(Th2極性)と抗体産生を伴うことが予想されます。微生物の免疫増強成分を抽出して使う成分ワクチンも提唱されましたが、炎症を回避して細胞性免疫を上げることに高いハードルがありました。感染症ワクチンは健康人に射ち、なべて炎症副反応を伴います

から規制によって安全性を担保していません。依って既存アジュバントを使ったワクチンは容易に認可が降りません。

薬事承認の規制当局ではアジュバントは今も医薬品の審査でなく抗原の付帯物、あるいは添加物として扱われています。従って、アジュバントのガイドラインも評価法も規定のない状況です。一部は食品の扱いを受けています。日本は免疫を誘起する薬剤に基本的な承認申請の道筋がないまま、コロナのパンデミックの襲来を受けたと解釈できます。国はガイドライン無しにコロナワクチンの承認対応を迫られました。

mRNAワクチンが1年かからず承認され、急場を凌いだと言われますが、安全性の問題は棚上げの現況です。発熱(=炎症)など副反応の強い、何度射っても記憶免疫が定着しない、基礎疾患を増悪させるワクチンの承認は慎重であって然るべきです。少なくとも、国の指針が5回も6回もワクチンを射つというのは免疫学的に合理的ではありません。ゼロコロナとか100日ワクチンとか掛け声は良いですが、ワクチンの有効性の評価は抗体価だけで、記憶免疫の評価系はありません。これらを含めてSCARDAはワクチンの評価系

から見直す必要があるでしょう。

北大を退官してからARNAXシーズに国の開発予算が付きまして。北の青森大学にがん・感染症の拠点ができたことを地域は喜んでいました。というのも、現時点で文科省は800以上ある私立大学と個別面談を行い、400余に減らす企画を進めています。少子化だから特色のない私大は要らないという政策らしい。私大は其々特色を創出する努力をしています。

一方、国立大学も合併・統合が進みます。研究で残れる大学法人は東大、京大、阪大、が確実。名古屋は中部連合を組んで名大・岐阜大に三重大などが加わる連合法人になります。東北は東北大が10兆円ファンドの卓越大学に選ばれてここを中心に連合が進みます。これら5つの大学法人は医学部も相応に参加しており、科学政策の拠点として生き残るでしょう。国は上記の大学5法人とその他に格差を設けるはずで

大学は社会の鏡で、多様な価値観と柔軟性の基に運営する必要があります。大学政策によって研究大学が偏り、若い人の地方離れが進むことが残念です。北大医学部が日本の研究凋落に対しこれからどう対応するのが問われるのだと思います。

ズームアップ⑱ ー日本(にっぽん)学士院会員に選定されてー

しらとひろき  
白土 博樹(57期)



図らずも伝統ある日本学士院会員に選出され、令和5年12月12日より新会員となりました。今裕第二代医学部長が昭和17-29年に会員であられました。今先生は東北大学医学部をご卒業であ

り、北大医学部を卒業した者としてはおそらく初めてのことであり、私のようなものが・・と恐縮至極です。私は北海道大学医学部に昭和56年に入学し、在学中は医学部漕艇部に所属、同部長

(顧問)は生化学教室の平井秀松先生で、世界的研究者の全人的な凄みを体感しました。卒業後は、入江五郎教授の北大病院放射線科に入り、研修しました。入江先生は、北大理学部入学後医学部

に移られた経歴を持ち、医師としてはがん患者に真摯に寄り添いつつ、未来を見通した医理工連携・産学連携研究を進め、高線量率腔内照射装置(現在、世界標準)等を開発されました。小生

がお世話になった頃の入江教授の下には、その後、深部がんへの重粒子線治療を確立された辻井博彦先生、病院医療画像情報管理システムを完成された宮坂和男先生、線量体積モデルの基礎を築かれた溝江純悦先生、体幹部定位X線治療を確立された有本卓郎先生をはじめ多くの優れた先輩がおられ、いずれのお仕事も、世界初でありました。今思うと、当時、理工学を医学に応用する能力と人材において、世界一の放射線医学講座であったと思います。運よく、28歳から2年間留学する機会を得、カナダではパイ中間子治療研究者、英国では臨床腫瘍医として働き、続く帯広では4年間主任医長として働き、その後の研究に関しては、日本学士院賞受賞決定に際し、北大医学部同窓会新聞第173号(令和4年8月20日)に書かせて頂いたとおりです。

さて、日本学士院小史(昭和55年発行)によると、日本学士院は、明治12年1月15日に東京学士会院が創設された日を

その起点としています。江戸時代の昌平坂学問所と蕃書調所を源流として、これらが明治政府の手に治められ、その行政的機能は文部省になり、学校の機能は東京大学に、そしてアカデミー的(自由にpure scienceの価値を競う)機能は東京学士会院にそれぞれ分化して受け継がれたそうです。もっとも、明治6年の明六社が日本最初のアカデミー的組織ではありますが、明治8年に政府による自由民権運動等への言論取締が厳しくなり同社が活動を停止してしまいます。そのあとを受けるような形で、文部省内にアカデミー設立論が起こり、東京学士会院が創設されたといえます。当時から、毎月例会を開き、研究の発表及び紹介がなされ、紀要(Proceedings)を出版、そこでの学術研究の成果発表は世界に対してそのプライオリティを争う場であり、まさに日本の学術学会の嚆矢でありました。その後、我が国の自然科学の進歩はめざましく、漸次自然科学部門の学者(長岡半太郎、北

里柴三郎等)が会員となるに至りました。万国学士院連合会への加盟を勧誘されたのを契機に、明治39年に帝国学士院が設立され、明治44年からは明治天皇からのご下賜金があり、恩賜賞の授賞が始まり、続いて民間から多くの寄付申し込みがなされ、現在の日本学士院賞の授賞や研究調査事業へと続いています。第一次世界大戦を経て、その後、大正時代には名実ともに我が国の学会を代表するものとなり、大正15年9月に宮内庁から文部省に移管された上野公園内に帝国学士院会館を竣工。第二次世界大戦下では、英米両国と交戦状態となりましたが、日本学士院は本来の使命を重要視して、事情の許すかぎり諸事業の遂行に努め、総会及び部会の開催、論文の発表及び紹介、授賞式の挙行などは一回の中断もなく平常通り続けました。終戦後、連合軍総司令部は、日本の学術体制のあり方に深い関心を寄せました。少壮学者をして科学渉外連絡会を組織させ、新た

に日本学術会議の設立を促進し、昭和24年に日本学術会議の基に日本学士院を置くこととし、日本学士院の独立性は風前の灯となった時期もあったといえます。しかし、山田三良院長が茅誠司学術会議会長(昭和6-17年 北海道帝国大学教授、昭和18-38年 東京帝国大学教授)宛に「日本学術会議と日本学士院とは分離独立することが相互のために望ましい」と提言し、茅会長はこれを重く受け止め、昭和31年から「日本学士院会員は、学術上功績顕著な科学者のうちから、日本学士院の定めるところにより、日本学士院において選定する」こととなり、独立性が復活しました。

まだ、数回の例会への出席しかしておりませんが、日本学士院が授賞者や会員を決める過程において、pure science上の功績を著しく重視しているののだと思うと、感慨深いです。日本学士院の歴史は、日本の「学問の自由」の歴史なのかもしれません。

## ズームアップ⑳ 小児がん患者に治療をドラッグ・ラグ解消へ向けた研究に関するクラウドファンディング、目標達成のご報告

北海道大学病院 がん遺伝子診断部 木下 一郎(64期)



小児科、脳神経外科、腫瘍内科、がん遺伝子診断部、薬剤部、臨床試験開発センターが丸となって実施しているBRAF遺伝子変異陽性小児がんのドラッグ・ラグ解消を目指した臨床試験(B-AMBITIOUS試験)と、その支えとなるクラウドファンディングについてご報告させていただきます。

がん遺伝子パネル検査が保険診療となり、当院で治療を受ける小児の腓膵房細胞癌患者に、BRAF V600E変異が発見されました。この変異に対し、ダブラフェニブとトラメチニブの併用が悪性黒色腫や非小細胞肺癌において高い効果を示し既に国内承認されていますが、その他のがん種や小児への適用はありませんでした。

参加可能な治験やその他の臨床試験がなく、製造販売企業へ医師主導治験や先進医療として実施するための薬剤提供を打診しましたが、世界的な開発戦略に影響があるため不承認となりました。一方、患者申出療養であれば、人道的見地から薬剤提供可能との回答が得られました。

患者申出療養は、未承認薬等を保険外併用療養として使用したいという困難な病気と闘う患者さんの思いに応えるため、新たな仕組みとして創設された制度です。治療アプローチの選択肢が限られる中、患者申出療養制度に基

づく特定臨床研究として本試験を立ち上げました。しかし、本制度は患者からの申出を起点とするため予め公的資金を申請するのが難しいという一面があり、試験実施費用は患者負担で開始しました。

2023年5月から開始し、全国から7例の患者が治療を受けています。しかし、臨床試験費用や小児用製剤の輸入費用、通院・滞在費用が患者家族に大きな負担となっていました。FDAによる同治療の承認が行われたため、本試験は、ドラッグ・ラグの解消の役割も担うことになりました。

患者負担軽減と、小児のドラッグ・ラグの問題提起のため、2023年9月からクラウドファンディングを開始し、2か月間で1300名以上の方から、目標を大きく上回る2600万円の支援を頂きました。

病気を克服された方、闘病中の方やそのご家族、残念ならお亡くなりになられた方のご家族からのメッセージはとても胸に響き、薬剤開発・ドラッグ・ラグ解消の重要性を改めて認識しました。また一般の方からも温かい

応援メッセージを頂いて、深く感謝しております。

また、全国メディアにも繰り返し取り上げて頂き、ドラッグ・ラグの社会的認識を高める一助となりました。

獲得した資金により、患者自己負担金額の大幅な軽減を実現し、さらに国立がん研究センター中央病院と京都大学医学部附属病院といった他施設での試験拡大にも着手することができました。

支援して下さったすべての皆様深く感謝申し上げます。

なお、2023年11月付で、本試験薬剤の中、ダブラフェニブカプセルとメキニスト錠は、BRAF V600E変異陽性の固形腫瘍への効能および体重26kg以上の小児用法・用量追加の承認を取得しました。小児における承認は、主に2つの

海外臨床試験のデータによりでしたが、この中に日本人の小児患者が含まれておらず、本試験を含めたデータが参考資料として考慮されております。

今回の承認では、体重26kg未満に対する小児用製剤(ダブラフェニブ分散錠とトラメチニブ経口服液)は未承認のままです。本試験では、ダブラフェニブ分散錠とトラメチニブ経口服液の(26kg未満の患者に対する)患者申出療養を継続し、薬剤提供と、将来の保険承認を目指し、有効性・安全性データの取得を続けてまいります。

改めまして、今回のクラウドファンディングにご協力頂きました同窓会の先生方、関係者の皆様に感謝申し上げます。今後ともご指導の程、宜しくお願ひ申し上げます。

### 小児がん患者に治療を。BRAF遺伝子変異をもつ小児がんの臨床試験へ



- 実施期間 57日間 (2023年9月4日~10月31日)
- CFサービス READYFOR株式会社
- 第1目標 100,000,000円 第2目標 255,000,000円
- 実施方式 All or Nothing型
- 訪問者数 15,739人
- 支援数 1,301人
- 支援金額 26,241,000円
- 支援率 8% (READYFOR社での平均は3%)
- 取り上げて頂いたメディア
  - 新聞掲載3回 (道内1回、全国2回)
  - ラジオ放送3回 (北海道内3回)
  - テレビ放送3回 (北海道内2回、全国1回)

— 小児がん治療の未来へ —  
分子標的薬による治療・研究を進めるために

## 重要なのは折れない心

はたけやま ほだか  
医学科6年 畠山 峰尚(第101期)

初めまして、北海道大学医学部101期の畠山峰尚と申します。僕は座っている時立っている時歩いている時常にポケモンのことを考えてしまう異常者な

のですが、その努力(?)がついに実りポケモンの全国大会で準優勝という結果を残したため、この度北海道大学医学部同窓会新聞に寄稿させて頂く運びと

なりました。

とは言うものの、この文章を読んでいる先生方の殆どはポケモンに触れたことがないと思われます。そんな場でポケモンの全国大会について長々と解説し始めても人を選びすぎる内容になってしまうので、まずは僕のポケモンの実力を大きく引き上げる鍵となった医学部スキー部での経験を書かせて

頂きます。

恥ずかしい話ですが、大学に入るまでの僕はあらゆる苦痛から逃げる人間でした。上達を感じられなくなればピアノをやめ、運動量を増やさねばならないとわかるとテニスをやめ、嫌いな暗記が増えてきたので勉強をやめ、ちょっと勝てなくなったら別のゲームを始めます。サウナは熱いから3分であ

がり冷たいのは嫌なので水風呂は入りません。この世の全ての苦痛から逃げた逃走王と化した僕ですが、流石にそんな自分が恥ずかしくなってきたのとなにか一つやり切ったと自信をつけたことから医学部スキー部のクロスカントリー部門に入部しました。

ただこのクロスカントリースキーという競技は少しばかり様子がおかしくて、短くても10km、長くと50kmもの距離を寒い中タイツ(みたいなウェア)で滑らされます。たまに-15℃の吹雪の中走らされます。しかも一度コースに出発してしまったが最後滑り切るまで帰れません。コースを逆走して逃げようとしても後続に轢かれます。早くお家に帰るにはなんとかして早く滑る他ありません。結果僕の腐った性根と上手く滑れば早く温かい休憩所に帰れるという競技性が奇跡のマリアージュを起こしました。こんなことあるんだ……。

ここで少しポケモンの話に戻ります。ポケモンというゲームは将棋に似ています。大きく違う点としては・自分と相手が同時に手を指すこと・駒の種類が1000種類以上あり、その中から6つのみ使用できるの2つです。前者によりポーカーカー的な心理戦が発生し、後者に

よって選択する戦略が重要になります。この中で僕の強みは後者の「使用するポケモンの選択」で、その肝は「自分だけが強さに気づいているポケモンを探し出す」ことにあります。そのためには毎日1時間はデータを眺める時間を作り、様々なポケモンを試すためにPDCAサイクルを回し続ける必要があります。この作業は兎に角地味で一日6時間以上かけて月に一匹強いポケモンが見つかるかどうかです。しかも見つけたポケモンが全国大会で通用するかはそこからの研究次第になります。強い人と同じポケモンを使っても心理戦で負けるだけなので探さない訳にもいかないのですが……。

上手くいくかわからないアイデアを長時間手を変え品を変え試し続ける。これは驚いたことにスキー部の練習も全く同じでした。練習の始めにその日一日意識してみることを決め滑り、煮詰まれば他人に質問したり上手い選手のビデオを見てアイデアを貰い、沢山の失敗の中で偶に成功する。過去の自分であればこんなこと30分で投げ出すのですが、スキー部には当たり前のように練習に取り組む先輩後輩が居ました。お陰で彼らと同レベルとは言えま

せんが頑張ることができました。

正直なところスキー部に入ってポケモンが強くなるなんてことは一ミリも想像していませんでした。僕は11歳から毎年ポケモンの全国大会に挑戦していましたが大学生になるまで一度も全国大会の舞台にすら上がっていません。才能が全く無いことは自覚していたのでスキー部に入った時点でポケモンを引退しても良かったと思います。それでも諦めずというか何も考えてなかったのが努力してきた結果が準優勝だったのかなと思います。お陰様でちっぽけな自分の頭一つでは人生何が起る

か全く予想できないことがわかりました。前進し続ければどっかしらにはたどり着くのかなと思います。

なんか格好いいことを書きましたが僕はポケモンの実力ですらまだまだです。ポケモンには世界大会があり、そちらは40位で終わってしまいました。しかも医学について一ミリも知らないのになんか国試は受けなきゃいけないし病院マッチングはあるし前途多難です。それでもできることは全力で取り組んでいくのでYouTubeで僕の試合を見ることがあれば応援して貰えると幸いです。



(左)著者(中央)日本チャンプ(右)世界チャンプ

## 理事会・評議員会報告

○日時 令和6年3月18日(月)

18:00～19:00

○場所 医学部百年記念館 大会議室

### 【理事会】、【評議員会】

理事9名、監事1名、評議員54名  
(出席者9名、委任状提出45名)

会議に先立ち、本日の理事会・評議員会は、協議事項及び報告事項が同一であることから長時間に亘る会議を避けるなど感染症の感染拡大防止のため、合同で開催することが提案され、これが了承された。

引き続き浅香会長から会議に際して挨拶があった。

政氏議長から理事会及び評議員は何れも過半数の出席があり、有効に成立している旨報告があった。

○議事

### 【協議事項】

1. 次期評議員会議長、副議長の選出について

現議長及び副議長の任期満了に伴い、次期議長・副議長の候補者について、審議の結果、議長には政氏伸夫先生(65期)、副議長には橋本直樹先生(76期)が選出されました。なお、任期は令和6、7年度の2年間です。

2. 次期役員(理事、監事)の選出について

現役員任期満了に伴い、篠原信雄役員候補者選考委員会委員長(60期)から候補者(理事13名、監事2名)の選考経緯及び選考結果について報告され、審議の結果、これが了承された。

政氏議長から、協議事項3「令和6年度会計収支予算(案)について」に先立ち、報告事項2.「令和5年度会

計収支中間報告について」を行う旨報告があった。

対応策を提案することとなった。

5. その他

### 【報告事項】

2. 令和5年度会計収支中間報告について  
大西会計担当理事から資料6に基づき、本年2月末日現在の令和5年度会計収支状況について報告があった。

### 【協議事項】

3. 令和6年度会計収支予算(案)について  
令和6年度会計予算(案)について説明の後、審議の結果、これが了承された。

4. 同窓会新聞の発送方法の変更について  
浅香会長から同窓会新聞の発送方法が変更となり、発送経費が増大するため早急な対策を検討する必要があるとの説明があった。

については、次回の会議に具体的な

### 【報告事項】

1. 次期評議員、予備評議員について  
令和4、5年度の各期毎の評議員及び予備評議員について報告がありました。

3. 令和5年度庶務、事業報告について  
久住副会長から総会及び新入会員歓迎会の開催及び諸会議の開催状況等について報告がありました。

4. 令和5年度編集報告について  
矢部編集理事から同窓会新聞及び同窓会誌の発行状況等について報告がありました。

5. その他

評議員会議事終了後、久住副会長から、退任の挨拶が述べられました。

## 新役員、評議員・予備評議員名簿

任期:2024年4月1日～2026年3月31日

### 〈理事・監事〉

役職	氏名	期	勤務先
会長	浅香 正博	48	北海道大学 名誉教授
副会長	佐久間 一郎	55	社会医療法人社団 カレスサポロ 北光記念クリニック 所長
	笠原 正典	56	北海道大学 名誉教授
会計理事	大西 俊介	70	北大大学院薬学研究院 分子細胞薬理学研究室 教授
編集理事	矢部 一郎	67	北大大学院医学研究院 神経内科学教室 教授
理事	松家 治道	48	北海道医師会 会長
	西澤 典子	56	医療法人萌友会介護老人保健施設 ゆあみーる
	畠山 昌則	57	公益財団法人微生物化学研究会・微生物化学研究所 特任部長
	小笠原和宏	59	釧路労災病院 副院長 外科部長
	本間 明宏	65	北海道大学医学研究院 耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 教授
	田中 伸哉	66	北大大学院医学研究院 腫瘍病理学教室 教授
	大場 雄介	72	北大大学院医学研究院 細胞生理学教室 教授
	近 祐次郎	74	さっぽろ内科・リウマチ膠原病クリニック 院長
監事	加畑 馨	72	北大病院医療ヘルスサイエンス研究開発機構再生医療センター 講師
	山崎美和子	78	北大大学院医学研究院 解剖発生学教室 准教授

### 〈編集委員〉

役職	氏名	期	勤務先
委員長	矢部 一郎	67	北海道大学大学院医学研究院 神経内科学教室
委員	山科 賢児	55	やましろ内科クリニック
	南須原康行	64	北海道大学病院 医療安全管理部
	蝦名 康彦	66	北海道大学大学院保健科学研究所 創成看護学分野
	田中 敏	71	北海道大学大学院医学研究院 死因究明教育研究センター 病理学部門
	氏家 英之	78	北海道大学大学院医学研究院 皮膚科学教室
	木佐 健悟	80	俱知安厚生病院 総合診療科
	松島 理明	80	北海道大学 保健センター
	的場光太郎	81	北海道大学大学院医学研究院 法医学教室
	白井 慎一	83	北海道大学病院 脳神経内科
	顧問	長瀬 清	40
佐久間 一郎		55	医)社団 カレスサポロ 北光記念クリニック
當瀬 規嗣		60	北海道文教大学 人間科学部健康栄養学科
田中 伸哉		66	北海道大学大学院医学研究院 腫瘍病理学教室

〈評議員・予備評議員〉

Table with 16 columns: 期, 評議員, 予備評議員, 期, 評議員, 予備評議員. Rows list names and terms for various committees.

告知板

＜教授就任挨拶＞



獨協医科大学医学部 小児科学主任教授

しらいし ひであき 白石 秀明 (68期)

2024年4月1日付けで獨協医科大学医学部小児科学主任教授を拝命いたしました。1992年に北大を卒業後、小児神経学を専攻して参りました。特に脳磁計を用いて、てんかん発作の発現機序を解明することにより、外科治療を含めた治療法の展開を行なって参りました。学内では精神科神経科、脳神経内科、脳神経外科の先生方、また、脳波室、検査室などの皆様の温かい援助を頂き、てんかんセンターを設立することが出来ました。これからは、異なるフィールドでの活動となりますが、北大での貴重な経験を糧に、頑張っ参りたいと存じます。更なるご指導の程、何卒よろしくお願ひ致します。



旭川医科大学 内科学講座 内分泌・代謝・膠原病内科学分野 教授

の もと ひろし 野本 博司 (82期)

2024年4月1日付けで旭川医科大学内科学講座内分泌・代謝・膠原病内科学分野教授を拝命いたしました。2006年に北大を卒業後に初期研修を経て北大第二内科に入局し、カリフォルニア大学ロサンゼルス校への研究留学などを経て、糖尿病・内分泌疾患に関する臨床・基礎研究、そして教育に従事してきました。この度、ご縁があり旭川の地で新たな挑戦をさせていただきます。これまでと同様に、故郷である北海道の医療・医学教育に尽力して参る所存です。皆様には今後とも変わらぬご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



秋田大学大学院医学系研究科 法医学講座教授

はやかわ あきら 早川 輝 (88期)

2024年3月1日付けで秋田大学大学院医学系研究科法医学講座教授を拝命いたしました。入学前に法医学分野の故寺沢浩一前教授の著書を読んで法医学を志し、2012年に北海道大学を卒業後、北海道大学で法医学を専攻し、寺沢先生逝去の後には、東京都監察医務院、群馬大学、カロリンスカ研究所で法医実務の研鑽を積みながら、ABO血液型や心臓性突然死に関する研究に従事してまいりました。これまで学んだことを礎に、多くの人材を育成し、死因究明を通じた地域社会の安寧秩序の実現に貢献していく所存です。今後とも御指導御鞭撻のほどよろしくお願い致します。

＜北大医学部第51期同期会案内＞

日時：2024年9月28日(土) 17：00開始予定 場所：ANAクラウンプラザホテル札幌 (旧札幌全日空ホテル) 会費：未定

＜学内・院内人事異動＞

＜定年退職＞

2024年 3月31日 久住 一郎(60期) 精神医学教室 教授 (苫小牧緑ヶ丘病院 診療顧問) 篠原 信雄(60期) 腎泌尿器外科学教室 教授(釧路労災病院 院長)

＜任期満了＞

2024年 3月31日 秋田 弘俊(57期) がん免疫療法研究部門 特任教授 (がん遺伝子診療部 招へい教員) 石森 直樹(69期) 心不全医薬連携開発学分野 特任准教授 (北海道心不全医療連携アカデミー 理事長) 茂木 洋晃(80期) 脳神経外科 助教(札幌麻生脳神経外科病院) 大東 寛幸(86期) 血液内科学教室 助教(市立札幌病院) 水口 賢史(90期) 心不全低侵襲先進治療学分野 特任助教(未定) 半田 悠(92期) 分子生物学教室 助教 (遺伝子病制御研究所 特任助教) 竹崎俊一郎(会員2) 小児科学教室 特任助教(KKR札幌医療センター) 5月31日 内野 晴登(84期) 脳卒中・循環器病ICT医療連携研究部門、脳神経外科 特任助教

＜辞職＞

2024年 3月31日 白石 秀明(68期) 小児科 講師(獨協医科大学小児科 主任教授) 折茂 達也(76期) 消化器外科学教室 I 助教(札幌厚生病院 外科部長) 加藤 扶美(76期) 放射線診断科 講師(自治医科大学) 古瀬 優太(79期) 周産母子センター 助教(未定) 水野谷和之(85期) 麻酔科 助教(札幌孝仁会記念病院 麻酔科) 5月31日 白鳥 聡一(80期) 血液内科 助教(市立旭川病院)

＜採用＞

2024年 4月 1日 杉木 宏司(74期) 心臓血管外科 助教 本多 昌平(74期) 消化器外科学教室 I 特任研究准教授 植田 佑樹(79期) 小児科 助教 吉田 雅(79期) 消化器外科 I 講師 松本 隆児(80期) 腎泌尿器外科学教室 特任講師 長津 明久(81期) 移植外科学分野 特任助教 大西 貴士(82期) 整形外科 助教 大野 陽介(82期) 消化器外科 I 特任助教 相山 健(83期) 消化器外科 I 特任助教 植木 将弘(83期) 小児科学教室 特任研究助教 白井 慎一(83期) 脳神経内科 特任助教

伊師 雪友(84期) 脳神経外科 助教 鈴木 崇祥(84期) 法医学教室 助教 八反田文彦(86期) リウマチ・腎臓内科 特任助教 吉川 仁人(87期) 放射線診断科 助教 木内 隆之(88期) 死因究明教育研究センター 特任助教 澤頭 亮(89期) 精神医学教室 特任研究助教 館 弘之(91期) 整形外科 特任助教 玉置 陽生(91期) 循環器内科 助教 内藤正一郎(91期) 循環器内科 特任助教 梅森 秀(92期) リハビリテーション部 助教 春日 優介(97期) 免疫学教室 特任助教 尾崎 倫孝(会員2) 法医学教室 特任研究准教授 中村 順一(会員2) 呼吸器内科 助教 長谷敬太郎(会員2) 眼科 特任助教 清水 薫子(78期) 呼吸器内科学教室 講師 6月 1日 中西 喜嗣(76期) 消化器外科 II 助教 成田 尚(82期) 精神科神経科 講師

＜昇任＞

2024年 4月 1日 長 祐子(66期) 小児成人移行期医療支援センター 教授 (小児科助教) 武田 充人(69期) 小児科学教室 准教授(同講師) 清水 康(71期) 腫瘍センター 講師(同助教) 榎原 純(72期) 地域医療連携福祉センター 教授(呼吸器内科講師) 江川 潔(74期) 小児科 講師(医学研究院助教) 小野寺智洋(75期) 整形外科教室 准教授(病院講師) 市川 伸樹(79期) 消化器外科 I 講師 (同特任助教) 三井 信幸(79期) 保健センター 准教授(精神科神経科 講師) 松島 理明(80期) 保健センター 准教授(神経内科学教室) 山田 勝久(81期) 整形外科 講師 (同助教) 木村 孔一(82期) 呼吸器内科 講師(同助教) 坂本 圭太(83期) 放射線診断科 講師(同助教) 小野 尚子(会員2) 光学医療診療部 教授(光学医療診療部准教授) 西尾 妙織(会員2) 血液浄化部 教授(リウマチ・腎臓内科講師)

＜配置換＞

2024年 4月 1日 柿坂 達彦(75期) 消化器外科学教室 I 講師(病院講師)

# 事務局からお知らせ

## 会員名簿の処分にお困りの方へ

会員名簿には個人情報に掲載されていますので、ご不要になった名簿は適切な処分をお願いいたします。ご自身で処分が困難な方は、郵便（レターパック等）により同窓会事務局へ送ってください。**なお、恐縮ですが送料は各自でご負担願います。**

○送付先  
〒060-8638  
札幌市北区北15条西7丁目  
北大医学部百年記念館内  
北海道大学医学部同窓会事務局  
【冊数が多い場合】日時指定の上、必ず「百年記念館」宛にしてください。  
※月曜日～金曜日（祝日、年末年始を除く）：10時～16時まで

## 同窓会費について

○会費納入のお願い  
会員の皆様には、会費納入にご協力いただきありがとうございます。  
同窓会の事業は会員の皆様の会費によって運営されています。今後も意義ある同窓会活動を継続していくために、会費納入にご理解とご協力をお願い申し上げます。

○会費納入は次のいずれかの方法によります  
①口座振替、②コンビニ納入、③銀行振込  
**※詳しくは同窓会新聞に同封される払込票をご覧ください。**

## ドクター総合補償制度のご案内

同窓会では「ドクター総合補償制度」を創設し、現在、500名以上の会員が加入して、ご好評をいただいています。  
本制度には「医師賠償責任保険（勤務医向け）」、「医療・がん保険」、「所得補償保険」があり、団体割引が適用さ

れるので割安な保険料で加入することができます。  
**年度途中でも加入出来ます**ので、同窓会事務局にお問い合わせください。

〈同窓会事務局〉  
電話：011-706-5007  
E-mail: furate@med.hokudai.ac.jp  
〈取扱代理店〉  
株式会社第一成和事務所  
〒103-8214 東京都中央区日本橋

馬喰町1丁目12番3号 Daiwa日本橋馬喰町ビル3階  
フリーダイヤル：0120-100-492  
E-mail: koumu@d-seiwa.co.jp



## 新刊書紹介



### 「Dr. Kの人生最終講義 “新しいいのちの誕生”」

こばやし ひろし  
小林 博(28期)著  
※(申込先)公益財団法人札幌がんセミナー  
TEL:011-222-1506  
E-mail:scs-hk@phoenix-c.or.jp

「枯葉のひとりごと」の書評を小林先生の数ある著書の最後と思って同窓会新聞に書かせていただいたところ、1年

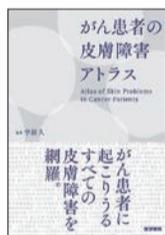
も経たないうちに“落ち葉のつぶやき”の書評を依頼されました。95歳を超える年齢で立て続けに新著を出されるエネルギーと高い能力にただただ驚嘆するだけでしたが、今年になってまさかの新著”Dr. Kの人生最終講義 新しいいのちの誕生”が発刊されました。文字通り100歳を目前にした人生の回顧録でこれまでの思い出をすべてまとめた前書きに書かれております。ご自身の大学生時代の思い出から書き始められていますが、小林先生の数あるお仕事の中で最も重要なものは小林先生御自身が立ち上げられた札幌国際がんシンポジウムであると思います。このシンポ

ジウムは1976年に第1回が開催され、2023年で43回を迎えております。世界中からがん研究の権威者が札幌に集まり、2-3日にわたって英語で討論するというがん研究の最先端レベルの会であり、内外からの評価も高く、1995年にはCancer Research誌の表紙に掲載されています。

スリランカで多く見られる口腔がんは噛みタバコが原因であり、それを止めさせる努力をすれば、がんの発生が防げることがわかっていました。しかしながら2000年以上にわたって続いている習慣なので、小林先生たちが如何に努力をしても周りからの理解が得ら

れずに、大人に対する噛みタバコを止めることはできませんでした。ここで小林先生は視点を変え、子供に焦点を当て、子供にがん予防教育を始めることにしたのです。その結果、子供にがん予防の知識が増えてくるとそれに影響されて大人にもその知識が普及していき、最終的に喫煙率が下がってきました。

本書には小林先生の人生最終講義と銘打たれておりますが、これで完結するとは思えません。100歳になられたときにどのような題名の著書が発行されることか今から楽しみにしております。  
(48期 浅香正博)



### 「がん患者の皮膚障害アトラス」

うはら ひさし  
宇原 久(62期)編著  
医学書院 ¥14,300

がん患者には様々な皮膚障害が生じる。分子標的薬や免疫チェックポイント阻害薬の登場により、以前に比べて皮膚障害の発生頻度は高まっており、がん診療に携わる多くの人たちを悩ませている。そこでつい登場したのが、皮膚がん研究の第一人者として知られる札幌医科大学皮膚科教授 宇原久氏による本書、「がん患者の皮膚障害アトラス」である。  
冒頭の第一章では、皮疹の「現時点での重症度の評価」「重症化の予測」「原因薬の検索」「現在投与中の薬剤の中止

の判断」「薬剤投与の再開についての判断」という最重要ポイントが明確かつコンパクトにまとめられている。ここを読むだけでも本書を購入する価値が十分にある。そして各論では、薬剤関連の皮疹やがん患者に好発するcommon diseaseに関して500点以上の臨床写真が掲載されており、皮膚科医でなくても皮疹が理解できる圧巻の内容となっている。また、患部の処置や対処法、皮膚科紹介のタイミングについても随所に記載されており、まさしく「痒い所

に手が届く」内容である。がんのみならず、アレルギーや感染症にも造詣の深い著者ならではの示唆に富んだNoteやMemoも必読である。そして本書には、「緊急度に関係なく気楽に皮膚科医に相談していただきたい」という著者の願いが込められている。

本書はがん患者に起こりうるすべての皮膚障害を網羅しており、がん診療に携わる全ての方々の手元に置いていただきたい珠玉の一冊である。  
(78期 氏家英之)



### 「大学生が見た日本の刑務所③ 身寄りがいい、お金がない女性刑務所点描」

たましろ ひでこ  
玉城 英彦(会員2期)他編集  
人間と歴史社 ¥2,750

本書は「大学生が見た刑務所シリーズ」第3弾であり、北海道大学の特別教育プログラム「新渡戸カレッジ(NC)」のフェローゼミ(2019年度)の一環として、2か月間にわたって実施したゼミの総括である。本書では、「女性刑務所と女性受刑者」に焦点を当て、万引きに伴う窃盗と高齢化の2点に注目して解説を進めている。

1回目(2017年度)は『刑務所には時計がない—大学生が見た日本の刑務所』(玉城英彦他、人間と歴史社2018年)、2回目(2018年度)は『大学生が見た日

本の刑務所②—一居場所がない』(同、2020年)として出版されている。

NCゼミ生(20人)は今回初めて札幌刑務所を訪問した。学生たちはまず、街の中に刑務所があることに驚く。そして口々に、「建物がきれいだ」「想像していたのと違う」と言う。しかし、警備の厳重な門をくぐるあたりから彼らに緊張が走る。少し怯えているようにも見える。

刑務所の扉の中に凝縮された日本社会の現実、私たちの近未来を彷彿とさせる。まさに刑務所は「社会の縮図」

なのである。学生たちはこの状況をどのように観察したのだろうか。

これから2ヶ月間、ゼミで学び、議論する中で、学生たちは、フェンスの内側で起きていることから、逆に自分たちの現実社会を観察し、自分たちのパラダイムに変化が起きていることに気づく。

読者はこのパラダイムシフトと心の底からの叫びに感動し、一気にページをめくる。

(81期 村上 学)

次号に新刊書紹介をご希望の方は、右記の要領でお送りくださいますよう、お願いいたします。

【原稿締切日】 2024年6月20日(木)までにお送りください。  
【字 数】 本文600字以内でお願いいたします。※本文の前に「タイトル」、著者名(または編集者・監修者名等)フリガナ(卒業期)、出版社名、金額(税込)を、最後に執筆者名および卒業期を明記してください。

【表 紙】 表紙の画像をメールに添付してお送りください。  
【書評執筆者】 著者(編集者・訳者・監修者)以外の同窓会員(会員2も含む)に限ります。  
【原稿送付先】 furate@med.hokudai.ac.jp  
【掲 載 号】 新聞179号(9月号、9月上旬頃発送開始予定)

# 北海道医学会からお知らせ

## ○北海道医学会について

北海道医学会は北海道における医学と医療の進展を図るため、大正12年に発足した学術団体です。現在は、北海道大学、札幌医科大学、旭川医科大学の医師、医学研究者のほか本会の目的に賛同される方々を一般会員として、また道内の主要医療機関には特別会員として、本会に功績のあった方々には名誉会員としてご参加いただいています。

※ 北海道医学雑誌は大正12年8月の創刊以来、戦中、戦後の一時期を除いて今日に至るまで継続して刊行され、北海道における医学総合雑誌として広く認知されています。

本誌は原著論文、学位論文以外にも、「研究会」「教室だより」などのセクションにおいて会員の様々な活動を紹介しています。

## ○入会のご案内

本会に入会されていない同窓会員におかれましては、是非ご入会いただきますようご案内申し上げます。医療機関としてのご入会も歓迎します。

なお、会員には機関誌「北海道医学雑誌」を発行の都度お届けいたします。

入会方法は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

## ○主な活動内容

- ・機関誌「北海道医学雑誌」の発行（5月、11月：令和6年は第99巻）
- ・学術集会「市民公開シンポジウム」の開催（10月下旬：昭和42年から実施）
- ・若手研究者への「研究奨励賞」の授与（年3名以内に賞状及び副賞：昭和58年から実施）

## ○会員の状況（令和5年12月31日現在）

- ・一般会員 531名（年会費 4,000円）
- ・学生会員 2名（年会費 1,000円）
- ・特別会員73団体（年会費 25,000円）
- ・名誉会員 169名

・投稿規定、掲載料等は、北海道医学会事務局にお問い合わせください。

## ○お問い合わせ先

北海道医学会事務局  
電話：011-706-5007  
E-mail: digakkai@med.hokudai.ac.jp

## 百年記念館の利用について

北海道大学医学部百年記念館は、原則北海道大学医学部及び関係部局が主催する授業及び行事、また、同窓生の交流の場としてご利用いただけます。なお、事前予約が必要のため、ご利用希望の際は庶務担当までご連絡願います。

### お問い合わせ先

北海道大学医学系事務部総務課庶務担当  
TEL: 011-706-5004 FAX:011-717-5286  
E-mail: shomu@med.hokudai.ac.jp  
【受付時間】月曜日～金曜日（年末年始・祝日を除く）午前10時15分から午後5時まで

## 過年度会費が2年を超える会費未納者と同窓会員名簿の発送について

### 【令和6年度同窓会員名簿について】

過年度分未納額が1万円を超えている方の納付期限は2024年9月30日としております。年度内(2025年3月31日まで)ではありませんので、ご注意ください。印刷経費等高騰のため、予備の印刷部数を減らし経費節約に努めておりますので、ご理解、ご協力をお願いいたします。

### 【過年度分の名簿および会誌について】

後日滞納分を納付いただきましても、在庫不足のためお送り出来ない場合がありますので、ご了承願います。

## 【令和6年度同窓会員名簿】記載事項確認のお願い

本年度は、名簿発刊の年に当たっており、11月下旬の発送を予定しております。**最新登録データは、新聞に毎号同封している「登録情報変更届（兼宛名台紙）」あるいは「コンビニ払込票（兼宛名台紙）」右上の「住所登録内容確認」部分に印刷しております。**変更等がございましたら、今回の同窓会新聞に同封いたしました**最新の「会員登録情報変更届」で、9月27日（金）までに事務局までお知らせください。（FAXやE-mailでも結構です）**ご返信のない方につきましては、訂正・変更がないものとし、従来からの登録データを掲載させていただきます。

住所変更等には可能な限り対応いたしておりますが、期日以降にご連絡いただきました場合、名簿の印刷には間に合わない可能性がございます。申し訳ございませんが、その旨ご了承ください。

また、名簿の校正は、各期評議員（予備評議員）あるいは各期の担当者が、自分の卒業期のみを担当しております。会員名をかたる偽の問い合わせには、くれぐれもご注意ください。お願い申し上げます。

## ご逝去者 新聞177号発行以降、ご連絡いただいた方を掲載しております。

御逝去年月日	氏名	期	御逝去年月日	氏名	期
2022年			2月27日	阿部 彌理	40
7月13日	河原 弘規	49	3月3日	川口 眞男	49
2024年			3月5日	伊原 敬吾	50
1月13日	山村 剛康	50	3月12日	高木 昭一	専7旧
2月12日	石尾 和敏	専6旧	3月26日	三角 幸生	76
2月15日	有本 卓郎	53	4月15日	藤田 洽介	40
2月23日	黒田 練介	38	5月11日	井上 芳郎	会員(2)

## 一面の写真説明

### 「北海道大学医学部百年記念館」

真部 淳(61期)

百年記念館は創立100周年記念事業として2019年9月20日に竣工しました。北大工学研究院のデザイン、道産カラマ

ツを用いた建物は、壮大かつ繊細、新しさの中に落ち着きを醸します。翌年5月には会館西側に当時医学部長だった吉岡充弘先生によって「ヒポクラテスの木」が植えられました。写真は2023年5月のお昼時、すっかり風景に馴染んだ初夏の記念館です。

## 編集後記

最近、川岸の遊歩道をよく散歩しています。川岸にはいろいろな草花、樹木が自生しており、川の流れも含め、季節の変化を敏感に感じることが出来ます。今年は例年になく桜の開花時期が早く、最近では真夏の様に暑い日が出てくるようになりました。季節の移り変

わりが加速している様な感じがしますが、これも地球の温暖化の影響でしょうか。そんな中でも、北大医学部同窓会新聞は発行を続け、今号で第178号を数えます。紙面は14面と盛りだくさんです。お楽しみいただけたなら幸いです。（71期 田中 敏）

◎会員登録情報の変更は、ホームページ内の「会員データ登録・変更フォーム」より、お手続きいただくことが可能です。  
<https://hokudai-med-dousou.com/contact/>

◎同窓会新聞は142号からHP上でご覧いただけます。アドレスは次の通りです。  
<https://hokudai-med-dousou.com/news/index.htm>  
◎新聞最新号webサイト公開時には、各期評議員・予備評議員の皆様にもメールで周知をさせていただきます。